ライオン誌（毎月20日発行）第59巻第11号 2017年4月20日発行 昭和33年12月19日付第3種郵便物認可

LION 電子版

ライオン誌日本語版では、2009年7月号から電子版の配信を開始。2016年からは、日本語版が創刊された1958年以降の全てのライオン誌を、電子版アーカイブとして公開しています。併せて全バックナンバーの記事を検索出来るシステムを開発し、ライオン誌ウェブマガジン上でご覧頂けるようになっています。ぜひご活用ください。

■ライオン誌日本語版最新号

ライオン誌日本語版の最新号は、ライオン誌ウェブマガジンのトップページにある表紙写真をクリックすると、雑誌形式の電子版が開きます。

http://www.thelion-mag.jp

■ライオン誌日本語版バックナンバー

1958年の創刊以来、全てのライオン誌日本語版が電子版でご覧頂けます。ウェブマガジン・トップページ左にある「アーカイブ」メニューからお入りください。最初のページでは、記事の検索も出来るようになっています。

●アーカイブ（創刊以来のバックナンバーの全記事検索）
http://www.thelion-mag.jp/emag.php

ライオン誌ウェブマガジンからはこの他、ライオン誌へのアクティビティ投稿や、ライオン誌読者プレゼントの応募、ライオン誌出版物の注文が、オンラインで出来るようになっています。

●アクティビティ投稿
http://www.thelion-mag.jp/report/activity/index.htm

●読者プレゼント応募
http://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0\

●ライオン誌出版物の注文
http://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2

電子版は専用アプリを使用することで、スマートフォンやタブレットからはオフラインでも閲読出来ます。電子版専用アプリは、ダイレクトクラウド社が無料で提供しているカタログビューア「Wisebook CloudViewer」で、iPhoneやiPadなどのiOSはApp Storeから、Android系スマートフォンやタブレット用はGoogle Playから無料でダウンロード出来ます。

■Wisebook CloudViewer（Android版）
Android版のGoogle Playダウンロード・ページ
play.google.com/store/apps/details?id=jp.wisebook.cloudviewer

■Wisebook CloudViewer（iOS 版）
iOS版のApp Storeダウンロード・ページ
itunes.apple.com/jp/app/wisebook-cloudviewer/id980521598

●国際協会ライオン誌日本語版デジタル（試験運用中）：http://mydigimag.rrd.com/publication?i=393311

●ライオン誌 Facebook：https://www.facebook.com/LION.MAG.JP
●ライオン誌 Twitter：https://twitter.com/LionJP
●ライオン誌 Instagram：https://www.instagram.com/lionmagjp/

LION MAGAZINE IN JAPAN
May 2017, Vol.59 No.11

We Serve CONTENTS

■2017年5月号
表紙
宮城県白石市
小原の材木岩
写真／鈴木秀晃

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

A Message From Our President

Chancellor
Bob Corlew
Lions Clubs International
President

ライオンズの本領を発揮：青少年に奉仕への参加を促そう

私は先日、アメリカ・サウスカロライナ州の盲ろう学校で、レオクラブの結成に立ち会いました。 特に心を打たれたのは新レオ・メンバーが地域社会への奉仕を誓う様子で、彼らの誠意には驚かされました。若者とはそうしたもの、見事なまでの情熱、エネルギー、理想に満ちた特性を持っているのです。そんな彼らを見逃すことが出来るでしょうか。私たちは、青少年との連携をますます深めることにより彼らのエネルギーとスキルを取り込み、奉仕への参加を促す必要があります。ライオンズにとって、青少年は絶好のパートナーに他なりません。

青少年の参加は、ライオンズクラブ国際協会の奉仕フレームワークの土台にもなっています。奉仕の将来は彼らのものであり、私たちはその手本になることが出来ます。皆さんのクラブと共に奉仕するよう、若者たちに促そうではありませんか。

青少年との関わり方は重要です。彼らを単なるボランティアではなく、パートナーとして扱いましょう。その意見に耳を傾けるべきであり、上からものを言ってはいけません。事業では重要なリーダーとしての役割を与え、彼らの成果をたたえてください。

『ライオン誌』本部版5月号の特集では、クラブが青少年をどのように奉仕に参加させているかを紹介し、皆さんのクラブで活用出来る具体的な方法を提案しています。簡単な三つの方法をご紹介致しましょう。

- 地元の高校や青少年団体に働き掛ける：共同奉仕事業を企画するよう提案し、その事業への資金提供を検討する
- 次回の奉仕事業への参加を青少年に呼び掛ける：彼らを計画立案に参加させ、重要な役割を与える
- 国際協会の青少年プログラムに参加する：国際平和ポスター・コンテストのスポンサー、ユースキャンプ及び交換プログラム（YCE）への参加、レオクラブの結成など

私も若い頃には、奉仕に参加したいと心から願い、大人が機会を与えてくれた時にはうれしく思ったものです。皆さんもきっと、同じような経験があるでしょう。私たちの奉仕は、それぞれの地域社会にとって掛け替えのない財産となっています。 しかし、次世代の人々を奉仕の人生へと導いてこそ、私たちはその活動を倍増させ、今後も長きにわたり奉仕を持続させていくことが出来るのです。

Bob Corlew

2016-17年度国際会長
ボブ・コーリュー

※「国際会長メッセージ」の原文は国際協会公式サイトに掲載されています
http://www.lionsclubs.org/EN/who-we-are/our-leaders/presidents-message.php

8

電動義手開発を支えた援助

1968年6月、ライオンズの支援を受けて徳島大学医学部が開発した電動義手の訓練をする吉森こずえちゃんの懸命な姿がNHKで報じられ、反響を呼んだ。

東京オリンピックの翌年、65年の302W・5地区（京都・滋賀・奈良）年次大会で、京都紫明ライオンズクラブが提案した「身体障害者に社会復帰を」という地区アクティビティが採択された。地区は特別委員会を設置し、徳島大学医学部の義手開発を援助するために助教授一人を西ドイツへ派遣することを決定。徳島大では山田憲吾教授（徳島ライオンズクラブ会員）が、電動義手開発に情熱を傾けていた。委員会の実態調査を担当した地区幹事ライオン上田昌三郎は、事業の始まりをこう振り返っている。

「こうした大事業をライオンズクラブ独力で最後まで支援することは不可能です。しかし私たちの志向し得るところは、悲惨な状態のままで放置されている人々に、社会的、国家的立場での対策を誘致することだ、という考えでスタートに踏み切ったのです」

徳島大学医学部整形外科教室では、西ドイツから持ち帰られた電動義手を見本に研究を進め、試作を重ねた。68年3月に完成した3号機は柔らかい紙巻きタバコをつまみ上げられるほどの性能で、実用化の第一歩となった。ライオンズの支援は、その電動義手を研究協力者6人に贈ったところで幕を閉じた。その後、国の援助を受けて研究を進めた山田教授の述懐。

「ライオンズの援助がなかったら、我が国の義手開発は更に何年か遅れたでしょう」

徳島大学医学部整形外科教室が開発した電動義手3号機を使うサリドマイド児の吉森こずえちゃん（当時8歳）。1950年代末から60年代初め、鎮静・睡眠薬として出回ったサリドマイドを服用した妊婦が障害のある子どもを出産する例が相次ぎ、大きな薬害問題となった

SCENE

福島県・郡山中央ライオンズクラブ

取材／砂山幹博　写真／吉田朱里

みんなの身体は「食べ物」で出来ている

「まごわやさしい」という語呂合わせがある。健康な食生活に役立つ和の食材「まめ」「ごま」「わかめ」「やさい」「さかな」「しいたけ」「いも」の頭文字を並べたものだ。こうした食べ物を積極的に取ることで健康な身体を作ろうと、小学生向けの食育講座を行っているのが、郡山中央ライオンズクラブ（蛭田隆会長／23人）。2月27日に郡山市立永盛小学校で行われた講座では、上級食育指導士の講師2人がアニメキャラクターのコスチュームに身を包み、食べ物の大切さを楽しく訴えかけた。

食育講座が始まったきっかけは、2005年に施行された食育基本法だ。不規則な食事時間や栄養の偏りなどで健全な食生活が失われていることから、家庭や学校、地域での食育推進を掲げたこの法律では、知育、徳育、体育の基礎として食育が位置づけられている。食育の大切さに共感した同クラブでは、身近にプロの講師がいたこともあって、12年前から地元の小学校や老人ホームを対象に年に3～4カ所で食育講座を行ってきた。小学校では、家庭科や保健体育、総合的学習の時間などを利用しての開催となるが、この日は午前中に3年生、午後に1年生の講座があり、午後はたまたま授業参観と重なった。

1年生向けの講座なので、飽きずに聞いてもらえるかが鍵だが、イラストが描かれたボードなどを上手に使って講座が進められるため、最後まで興味をもって聞いてもらえたようだ。教室の後方で、保護者たちも興味深そうに耳を傾けていた。

SCENE

長野県・佐久ライオンズクラブ

取材／井原一樹　写真／関根則夫

岩手県住田町へ長野の子どもたちを連れてミニバス親善試合開催

3月25日、岩手県の住田町生涯スポーツセンター体育館でミニバスケットボールの試合が行われていた。コートに立っているのは長野県・佐久の子どもたちと大船渡など岩手県のチーム。これは、佐久ライオンズクラブ（中村通会長／84人）が大船渡ライオンズクラブの協力を得て実施しているアクティビティだ。今回が2回目の開催となる。

佐久ライオンズクラブは東日本大震災直後からチャリティーゴルフなどの収益を利用してランドセルの寄贈や義援金の送付など、震災関連の事業をクラブの中核に据えてきた。一方、県内でミニバスの試合が少ないことから、青少年健全育成事業の一環として大会を開催することにした。その際、優勝チームを東北に連れて行き、現地のチームと親善試合をすることも決めた。

発生から6年が経ち、震災時の記憶が薄れている子も多い。そうした子どもたちに東日本大震災について伝えていくのは非常に重要なことだとクラブでは考えている。岩手までの道のりはバスで8～9時間と長丁場な上、1泊2日の弾丸ツアーだが、車中では震災の映像などを見せ、試合後には交流会を行う。また、翌日は陸前高田などを訪問し、子どもたちが現地で何かを感じ取れるように努力している。最初はこの過密スケジュールに参加辞退もあるのではと思っていたが、6年生にとって最後の大会となることもあり、東北行きを目標にがんばってくれているという。クラブでは今後もこの事業を継続し、震災の記憶を伝え続けるつもりだ。

町民歌
『幸せ創るまち』
OFUNATO
USUDA
OFUNATO
OFUNATO

334-B地区

三重県・伊賀上野ライオンズクラブ

さまざまな体験を通して、子どもたちの成長を育む

伊賀市は三重県北西部、伊勢参宮街道の奈良街道、伊賀街道、初瀬街道など、京都・奈良や伊勢を結ぶ交通の要衝として、古くから栄えてきた。中央の影響を強く受けながら独自の文化を醸成し、その中から、後に俳聖と呼ばれる松尾芭蕉が生まれている。また、伊賀忍者発祥の地としても知られ、今年2月22日（忍者の日）には「忍者議会」が開かれ、午後2時22分頃、忍者の衣装を身にまとった市議らが、市長の提案した「忍者市宣言」を全会一致で可決している。

ビニール袋ロケットを飛ばし大はしゃぎの子どもたち

3月12日、そんな伊賀市にある三重県立ゆめドームうえので、「第14回わくわく子どもフェスタ」が開催された。事業の中心は伊賀上野ライオンズクラブ（石原和夫会長／96人）で、伊賀北ライオンズクラブ（不動暁東会長／49人）と、上野児童福祉会連合会の協力を得て実行委員会を組織。体験を通して子どもたちの成長を促そうと、「作って遊ぼう」「作って楽しもう」「ロケットとばし」「おもしろ理科実験」「チャレンジ！ ザ・エコ」「昔のおもちゃ」「伊賀おもちゃ病院」「防火体験」「伊賀の仕事」など、さまざまな体験プログラムが提供された。

伊賀上野ライオンズクラブは伝統的に青少年育成に力を入れてお

●投稿要領：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に。700字程度。写真を添付。ライオン誌ウェブマガジンのオンライン投稿か、Eメールまたは郵送で。送付先は57ページ下。

※写真に100周年ロゴが付いた活動は100周年記念奉仕事業として国際協会に報告された事業

り、わくわく子どもフェスタの前は「うえのっ子スノーフェスタ」を実施していた。自然の中で遊びながら子どもたちの協調性と創造性を高めようと、滋賀県米原市の奥伊吹スキー場周辺からトラック7台分の雪を運び込み、巨大な雪山や雪像を築造。毎回、大量の雪が隠れるほど多くの子どもたちが集まり、イベントは大盛況だった。更に終了後には、希望した保育園に雪を提供し、園児や父兄だけでなく、保育園関係者にもとても喜ばれていた。が、2000年に始めたスノーフェスタは、経費がかかりすぎるのが難だった。結局、3年で事業を見直し、03年にメンバー所有の田んぼでの泥んこ遊びイベントを挟んで、04年から現在の形に変更した。

わくわく子どもフェスタとなって既に14年。伊賀市では恒例のイベントとして認知されているため、今年も開場と同時に大勢の子どもたちが父兄に付き添われて参加。それぞれ真剣な表情で、ペットボトルロケットやプラバン・アクセサリー作りに取り組んだ。各体験コーナーでは協力団体のスタッフとメンバーが子どもたちを手助け。作っているものが完成し、子どもたちが笑顔になると、手伝いのメンバーの表情もほころび、会場となったゆめドームうえのには、一日中、笑顔があふれていた。

（取材／鈴木秀晃）

336-D地区

島根県・出雲中央ライオンズクラブ

大きな夢を乗せて飛んでいけ 全日本折り紙ヒコーキ大会

3月20日、出雲中央ライオンズクラブ（三宅スミ子会長／46人）は、折り紙ヒコーキ協会（戸田拓夫会長）、日本航空（JAL）の協力を得て、第2回全日本折り紙ヒコーキ大会出雲大会を主催した。テレビや雑誌に多数出演している戸田会長をゲストに呼んだこともあり、県外からも多くの人が集まり、来場者は延べ3千人を超えた。

折り紙ヒコーキの競技は、年齢・性別・障がいの有無など関係なく平等に参加出来る。子どもたちにものづくりや工夫する楽しさ、諦めないで挑戦する気持ちを育んでもらおうと青少年育成事業として実施した。また、ライオンズクラブをPRするため、献血・献眼・眼鏡リサイクルブースを設置。綿菓子などを販売するライオンズ屋台も出店して来場者を喜ばせた。

大会は予選と、それを突破した人で行われる決勝との2部構成。距離ではなく、どれだけ長く空中を飛んだか、という滞空時間で競われる。競技エリアに入るに際し、参加者は計測者とペアになる。投てきは2回。練習は本番とは別に2回許されている。予選突破タイムは幼児が3秒、小学生が7秒。普段の生活では気に留めるような時間ではないが、こと紙ヒコーキの滞空時間として考えると、想像以上に長く感じる。わずかな差が予選を通過出来るか否かを分けるため、計測者であるメンバーも真剣な目つきでストップウォッチを構えていた。参加費は材料費を含めて300円。予選の結果に満足いかなかった場合は100円を払えば再挑戦出来る。

三宅スミ子会長と藤本幸嗣336-D地区ガバナーが始球式ならぬ始投式を実施

大会の途中では折り紙ヒコーキ協会の戸田会長による滞空時間ギネス新記録挑戦も行われた。この日は朝のうちかかっていた霧の影響で湿気が多く、紙ヒコーキにとっては悪条件。そのため、ギネス記録である29秒には届かなかったが、戸田会長が1投するごとに会場は大盛り上が

り。予選の様子も見ているため「こんなに長く飛ぶんだ」「紙ヒコーキってすごい」と興奮した声があちこちから聞かれた。

クラブでは県内各市町村の教育委員会にお願いをしたり、保育園などに直接出向いたりと手分けしてチラシを配布。大会の準備や片付けもメンバーで行っている。全国規模の大会を毎年実施出来るかは不透明だが、今後は市内の小学校で折り紙ヒコーキ教室を開いたり、小学校対抗の団体戦を企画したりと、折り紙ヒコーキを広め青少年育成に努める考えである。（取材／井原一樹　撮影／関根則夫）

戸田会長のギネス挑戦を皆がかたずを飲んで見守る

CLUB REPORT

333-E地区

茨城県・水戸北ライオンズクラブ

ライブハウスで若者たちへ ストップ・ザ・ドラッグ

水戸北ライオンズクラブ（園部稔会長／36人）は青少年健全育成・薬物乱用防止活動に特に力を注ぎ、ライオンズ国際平和ポスター・コンテストや、小学生ミニバスケットボール大会などを毎年開催している。その中でも独自の取り組みが、年1回ライブハウスで行う、薬物乱用防止教室だ。

2月19日、市内にある水戸ライトハウスの全面的な協力を得て、今年で15回目となる薬物乱用防止「ストップ・ザ・ドラッグ　パフォーマンス　ライブ」を開催した。水戸市内出身の人気アーティストが多数出演するにもかかわらず、入場は無料。今年も会場は200人の観客で満員となった。入場者には当クラブのメンバーが直接、薬物乱用防止のパンフレット等を手渡す。今回は、ゾーン内他クラブのメンバーも多数参加した。

ライブは1組目から盛り上がり、まだ2月だというのに、会場内は真夏のよう。Tシャツでも汗をかくほどの熱気だ。ライブ中盤では、薬物乱用防止啓発DVDを上映。その後、菊池孝青少年・社会福祉委員長がステージに上がり、近年の青少年を取り巻く薬物乱用の現状、薬物乱用事件について、有名人の事件や茨城県内で発生した事件を例に、参加者に説明した。実際に誘われた時の対処法など具体的に、分かりやすく語り、薬物は絶対ダメ、と力強く訴えた。最後に会場全員で「ダメ。ゼッタイ。」と大きな声を出した。

来年度、水戸北ライオンズクラブは40周年を迎える。今後も地域に根差した活動を地道に続けていきたい。（幹事／大津常行）

333-A地区

新潟県・柏崎ライオンズクラブ

子どもたちを薬物から遠ざける 薬物乱用防止教室

今年も子どもたちに熱き思いを届けることが出来た。かれこれ12年になるが、柏崎ライオンズクラブ（佐藤直隆会長／56人）は市内の小中高校を対象に薬物乱用防止教室を開催している。今年度は昨年の7月から今年2月にわたる長丁場で、子どもたちを絶対に薬物乱用の世界に入り込ませないことを念頭に、小学校11校と中学校6校を対象に実施することが出来た。

薬物って何？　乱用って何？から始まるこの講習会は、話が進むにつれて子どもたちの目の色が変わってくるのが分かるほど、内容に興味を持ってもらえている。

クラブには15人の認定講師が在籍しているが、その内9人がゴールドの認定証を有している。講習用のパンフレットも認定講師の手作りで、毎年少しずつ加筆されていることから非常に完成度が高いとの賛辞を頂いた。

今年度は一部で保護者の聴講も受け付けた。初めての試みではあったが「親ではとても説明出来ません。おかげさまでこれからの子どもたちにとっては非常に大事なことを教えて頂きました。本当にありがとうございました」とのお礼の言葉が後日届いたことが、その意義深さを物語っている。

この活動は長期間の実績から各方面にも認知されつつあり、手前味噌ながら評判もいいと自負している。毎年楽しみにしている教職員も多いし、また何よりもこれからの日本を背負っていく子どもたちのために、ぜひとも継続してその機会を設けていきたい。

（PR情報委員長／松谷誠也）

332-A地区

青森みちのくライオンズクラブ

薬物乱用防止活動に活かす新酒を楽しむ夕べ

2月24日、青森みちのくライオンズクラブ（野澤正樹会長／20人）は10回目を迎えた「青森県産酒・新酒を楽しむ夕べ」チャリティー・パーティーを開催し、268人にご参加頂いた。

2008年から開催しているこのパーティーでは、薬物乱用防止活動に積極的に取り組んでおり、昨今横行している危険ドラッグなど、違法薬物に関する正しい知識、乱用防止について広く知って頂く機会にしている。収益は薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金への協力の他、あしなが育英会へ奨学金として寄贈している。

野澤会長のあいさつの後、薬物乱用防止キャンペーンビデオが上映され、下山順之実行委員長から薬物を巡る現状について説明があった。その後、パーティー参加者で力強く「ダメ。ゼッタイ。」と3回コール。続いて高橋重則第2副地区ガバナーの発声で乾杯し、パーティーが始まった。

参加者は、今回協力頂いた16の蔵元のブースを巡りそれぞれのお酒を楽しんでいた。日本酒を使った2種類のカクテルコーナーや漬物、切り込みなどもあっという間に無くなるなど、大盛況となった。

三味線ライブで会場は大いに盛り上がり、最後の抽選会では、ご提供頂いたビードロのストラップ、お菓子、また、もっこり玉子、お酒（4合瓶）のプレゼントの他、10周年記念として、めずらしい県産酒（1升）6本という豪華な賞品に参加者は驚いていた。今後もこの事業を続けていきたい。（IT・機関誌特派員／遠藤直樹）

331-B地区

北海道・旭川北斗ライオンズクラブ

冬の歩行者転倒問題に対策を滑りにくい人工芝を設置

旭川北斗ライオンズクラブ（和泉政義会長／12人）は、ライオンズクラブ国際協会創立100周年記念レガシー・プロジェクトの一環として2016年11月下旬、旭山動物園と科学館サイパルへ、冬道でも滑りにくい人口芝（スベランヨ）をそれぞれ100平方メートル（100万円相当）設置した。

冬道の歩行者転倒による緊急搬送者数は旭川だけでも年間500件以上発生しており、北海道ならではの深刻な社会問題となっている。市民はもとより、雪を知らない観光客の転倒事故防止として、今回は観光客が多く集まる施設の坂道に設置を行い、安全な歩行箇所を確保した。

当初は一施設のみの予定だったが、他施設からも要望を頂いたため、急きょ予算を倍増して実施した。少人数クラブとしては少々負担が大きかったが、親子連れがスベランヨの上を転ばずに歩いてくれている姿を目にすると、来年も多くの箇所に設置しなくては、とドネーションにも気合が入るもの。

「会員増強」は言うは易く行うは難し。しかし奉仕へのチャレンジは決して難しくはない。

国際会長テーマ「次なる山を目指して」に添い、今年度は新たに二つの奉仕チャレンジを行った。少人数のクラブではあるが、和泉会長のリーダーシップによって、一人ひとりが責任をもって役割をきちんと果たすため、やりやすいし、動きやすく、奉仕の実施が早い。少人数ならではの利点を生かし、これからも地域との和を大切にし、心のこもった奉仕活動に奮闘し続けていきたい。（幹事／佐藤惇）

334-B地区

岐阜県・高山岊城ライオンズクラブ

冬場に運動する機会を バブルサッカー大会実施

岐阜県の飛騨高山は中山間地だ。豪雪地域であり、冬期間は屋外で活動するのが困難である。こうした土地柄であるため、高山岊城ライオンズクラブ（75人）は寒い中でも子どもたちに体を動かして汗をかいてもらいたいという思いから、冬季にスポーツ大会を行っている。当クラブが設立当初から地域の青少年育成のために尽力してきた活動の一環だ。

一昨年まではドッヂビー大会を実施していたが、今年はクラブ設立45周年ということもあり、加藤誠会長の提案でバブルサッカー大会を開催することになった。バブルサッカーとは、ビニールの風船で体をすっぽり覆った状態でサッカーをする競技で、衝突しても痛くないようになっているため、多くの人が楽しめる。

参加者は高山市スポーツ少年団の子どもたちを対象に募集し、当日の2月4日は19チーム約100人が会場の飛騨高山ビッグアリーナに集まった。試合の空き時間を利用して、的あてゲームや薬物乱用防止教育小学生版のDVD放映を行い、リーフレットの配布をするなど運動と教育の両面に考慮した方式で実施した。子どもたちの楽しそうな笑い声と、白熱した試合に声援を送るご父兄の姿で、大変な盛り上がりに。地元の報道機関には大きく掲載をして頂き、反響の大きさに本当に必要とされるアクティビティの重要さを身に染みて感じ、会員皆で達成を喜び合った。今後も地元に必要とされる意義のある奉仕活動を推進していきたい。（青少年育成委員長／佐藤嘉永）

335-C地区

奈良県・五條ライオンズクラブ

41回続く剣道大会に 60団体400人以上が参加

2月5日、五條ライオンズクラブ（田中義人会長／28人）が主催する奈良県内小・中学生剣道大会が開かれた。この事業は毎年、青少年健全育成のために開催している。

当クラブのチャーター・メンバーである故ライオン西尾信篤が剣道の有段者でかなり名が知られていたことから、その剣道で子どもたちの育成が出来ればと始めたのが、この大会の最初である。41回目の大会となった今回から「木村篤太郎杯剣道大会」と名を改めて実施された。

大会名になった木村篤太郎先生は明治19年に五條市で生まれ、東京帝国大学法学部英法科を卒業後、初代法務大臣や初代防衛庁長官を歴任された一方で、剣道家として全国剣道連盟の初代会長にも就任された立派な方である。

今回の会場となったシダーアリーナは市民の憩いの場所、上野公園に新しく建築された体育館だ。五條市は、近辺の吉野、十津川と共に昔から林業の盛んな土地柄であり、その木材をたくさん使って建てられたシダーアリーナの会場に入ると、ほんのり木の香りが漂う。この日は奈良県下から、60団体400人余りが参加。それに監督、審判役員並びに大勢のご父兄にご来場頂き、大会は盛大に開かれた。

今回、試合前の宣誓は久々の女子で、金陽剣道クラブの坂田七海主将。声高らかにハキハキとすばらしい選手宣誓だった。午前9時から昼食をはさんで午後4時頃まで個人戦及び団体戦が行われたこの大会。来年も大きな大会になるよう願いながら無事終了した。（北谷久）

佐賀県・唐津キャッスル ライオンズクラブ

子どもたちに豊かな心を
児童生徒俳句・川柳大会開催

唐津キャッスル ライオンズクラブ（瀬戸ユリ子会長／38人）は、子どもたちに感性豊かな心を育んでほしいとの思いから、から つ児童生徒俳句・川柳大会を主催している。10回目となる今年は、47校から6609人が参加。これは全児童生徒数の6割である。応募句は1万7680句に上った。

3月11日に表彰式を開催。選者の先生に大賞・特選・入選・佳作を選んで頂き、佳作を除く58人に賞状と副賞、学校賞には賞状と楯を授与した。大賞、特選の22句については瀬戸会長が筆を取り、条幅に書き上げたものを展示。その前で記念写真を撮る受賞者たちはとてもいい雰囲気で、開催して良かったとうれしくなるような表情ばかりだ。

毎年、各校学級担任宛てに依頼文書を送り、その後会員が各校長にあいさつに行く。そして集まった作品の整理、仕分けをし、選者の先生に優秀作を選んで頂いている。優秀作品を収めた句集は、入力校正、印刷製本全て会員の手作りで行っている。

募集から表彰式まで6カ月の準備を要する事業だが、子どもたちの感性豊かな、素直な心に触れると、これからも微力ながらがんばりたいと思う。

（幹事／中武友子）

大賞には以下の4作品（俳句2句／川柳2句）が選ばれた。

おとしだまいつかわたしがあげるばん（小学1年生）

美しく日本を照らす初日の出（中学2年生）

アルバムを見るとうまれてよかったなあ（小学1年生）

組曲に染みる故郷の温かさ（中学2年生）

島根県・松江ライオンズクラブ

合唱クラブに発表の場を与える
小学生のための合唱の集い

文部科学省の小学校学習指導要領から部活動が消え、クラブ活動形式に移行となった今日、松江市内36小学校のうち合唱クラブがある小学校は7校のみとなっている。これらのクラブは保護者やPTAの拠出金で運営されており、維持が大変厳しいという現状もあった。また、合唱クラブの発表の機会はほとんどないという。

そこで松江ライオンズクラブ（坪内浩一会長／137人）は2月26日、松江市内の小学校合唱クラブに所属する児童を対象に「小学生のための合唱の集い～響け子供たちから、未来へつなぐ愛の歌声～」を開催した。会場は島根県民会館の中ホールだ。

今回のコンサートは3部構成。1部は今回の趣旨に賛同して呼び掛けに応じてくれた松江市内4校の小学校合唱クラブ2～6年生の児童78人がすばらしい歌声を聴かせてくれた。1部が小学生に日頃の練習の成果を発表する機会を提供すると共に、歌う楽しさや歌の持つ力、すばらしさを再認識してもらうものであったのに対し、2部では市内の中高生の合唱部の生徒さんがその歌声を披露してくれた。最後の3部では小学生と中高生が共に歌う構成である。「仲間と心を一つにして歌えた」「他校の歌声に刺激を受けた」「卒業前の良い思い出が出来た」など一生懸命に歌った児童たちの満足そうな笑顔が印象的だった。

一昔前、放課後になると聞こえていた歌声が消えつつある今、当クラブではこの活動を通して少しでも青少年健全育成に貢献したいと考えている。

（国際・教育委員長／原章博）

LIONS ON LOCATION

ポーランド

平和を祈って走る ウィ・ラン、ウィ・サーブ

2016年6月、福岡の街を走る3人のライオンがいた。ポーランド人のライオンマリウシュ・シエイブとライオンダニエル・ヴィスロ、二人とも元地区ガバナーだ。そしてドイツ人のライオンルートヴィヒ・シュレーレス。「ウィ・ラン、ウィ・サーブ」という掛け声に、道行く人々から笑顔がこぼれた。

13年にハンブルク国際大会で出会った彼らは、国同士の悲しい歴史を超えて、平和のために一緒にチャリティー・マラソンをすることにした。今回は第99回福岡国際大会開会に合わせ、広島から5日間かけて約270キロを走破してきた。到着後には山田實紘国際会長（当時）との対面も果たすことが出来た。

彼らの最初のマラソンは、ポーランドのシュチェチンからハンブルクまでの420キロ。1万5千ドルの募金が集まり、洪水に見舞われたドイツの子どもたちに贈った。

14年はポーランド・グダニスクの造船所からスタート。東欧革命25周年に当たるとあって出発式には著名人が列席、スターターを務めたのはポーランドのワレサ元大統領だ。620キロを走り抜け、ベルリンの壁崩壊記念日も近い10月3日、ベルリンのブランデンブルク門にゴールした。集まった2万ドルの募金はウクライナの孤児へ贈られた。

15年のルートは、ポーランド、リトアニア、ラトビアにまたがる434キロ。募金でリトアニアの小児がんを患う子どもたちのための医療機器を購入した。

そして昨夏、3人は広島の平和記念公園で祈りをささげてスタート。彼らと一緒に走り始めた最初の人は、広島で原爆投下の19日後に生まれたという男性だ。他にもライオンズ・メンバーや市民が参加したり、自転車で伴走したり、声援を送ったりした。

集まった募金は、日本とネパールの地震被災者のために使われることになった。

LIONS ON LOCATION

ブラジル

引き継がれていく ライオンのための入門書

1963年、ブラジルのアウレオ・ロドリゲス元国際理事は、ライオンズクラブについて会員の理解が十分ではないと感じ、ポケットサイズの入門書『スマート・ライオンズ』を作成した。彼のアイデアは引き継がれ、昨年、第37版が発行された。45ページだった初版から最新版では264ページにもなり、ライオンズクラブ創設100周年といった最新情報も盛り込まれた。一方、ポルトガル語で書かれたこの本には、ポケットサイズ、質疑応答形式、ライオンズクラブの歴史やプロトコール、メルビン・ジョーンズ・フェロー（MJF）の要件、より良い例会のヒントなど、初版から全く変わらない部分もある。

同書は家族の中でも引き継がれた。ロドリゲス元国際理事は長くブラジル版ライオン誌の編集長を務め、14年に亡くなったが、父の跡を受けてライオン誌編集者となった娘のデニス・ロドリゲスが、『スマート・ライオンズ』の監修を続けている。

これまでの売り上げはブラジルとポルトガルで累計7万部に上る。「これほど多くの人に読み続けられるとは、父も思っていなかったでしょう」とロドリゲス。

近年の版にはデジタル時代に対応したアドバイスもある。例えばMyLCIのパスワード設定や、100周年記念奉仕チャレンジの報告方法などだ。そして今も、奉仕の高みを目指した父の思いは本の中に刻まれている。デニス・ロドリゲスは最新版にこう書いた。

「もし何か迷うことがあったら、この本を開いてみてください。そこにあるのは私の父が『永遠のスマート・ライオン』になったゆえんです」

LIONS ON LOCATION

オーストラリア

ディケンズの子孫の喜び

グレンサイド ライオンズクラブが主宰するブックマートは、南オーストラリア州で最も利用されている古書店の一つだ。

ボランティア・スタッフのジャッキー・ホールディッチは本好きで、地域の役に立ちたいと思い働き始めた。彼女は、『クリスマス・キャロル』や『二都物語』などで知られるイギリスの小説家チャールズ・ディケンズの遠い親戚に当たる。それは以前から知ってはいたが、昨年、家系のルーツを調べるサイトで系図をたどることが出来た。「すごく興奮して、ブックマートの友達に話して回りました」

彼女は完全にのめり込み、家にはディケンズの全作品が並んだ。そして、ブックマートでディケンズに関する論文「A Tale of Two Brothers: Charles Dickens's Sons in Australia」（二兄弟物語：オーストラリアに住むチャールズ・ディケンズの子どもたち、の意）を見つけたことで、彼女の情熱は最高潮に燃え上がった。ホールディッチは新聞に、オーストラリアで暮らした、チャールズの息子エドワード・ディケンズについて6本の記事を寄稿し掲載された。するとシドニーで開催されるディケンズに関する国際会議と、その前に州都アデレードで教師や図書館員が集まる会に、スピーカーとして招待されたのだ。「全く思ってもみないことが次々に起きたんです」

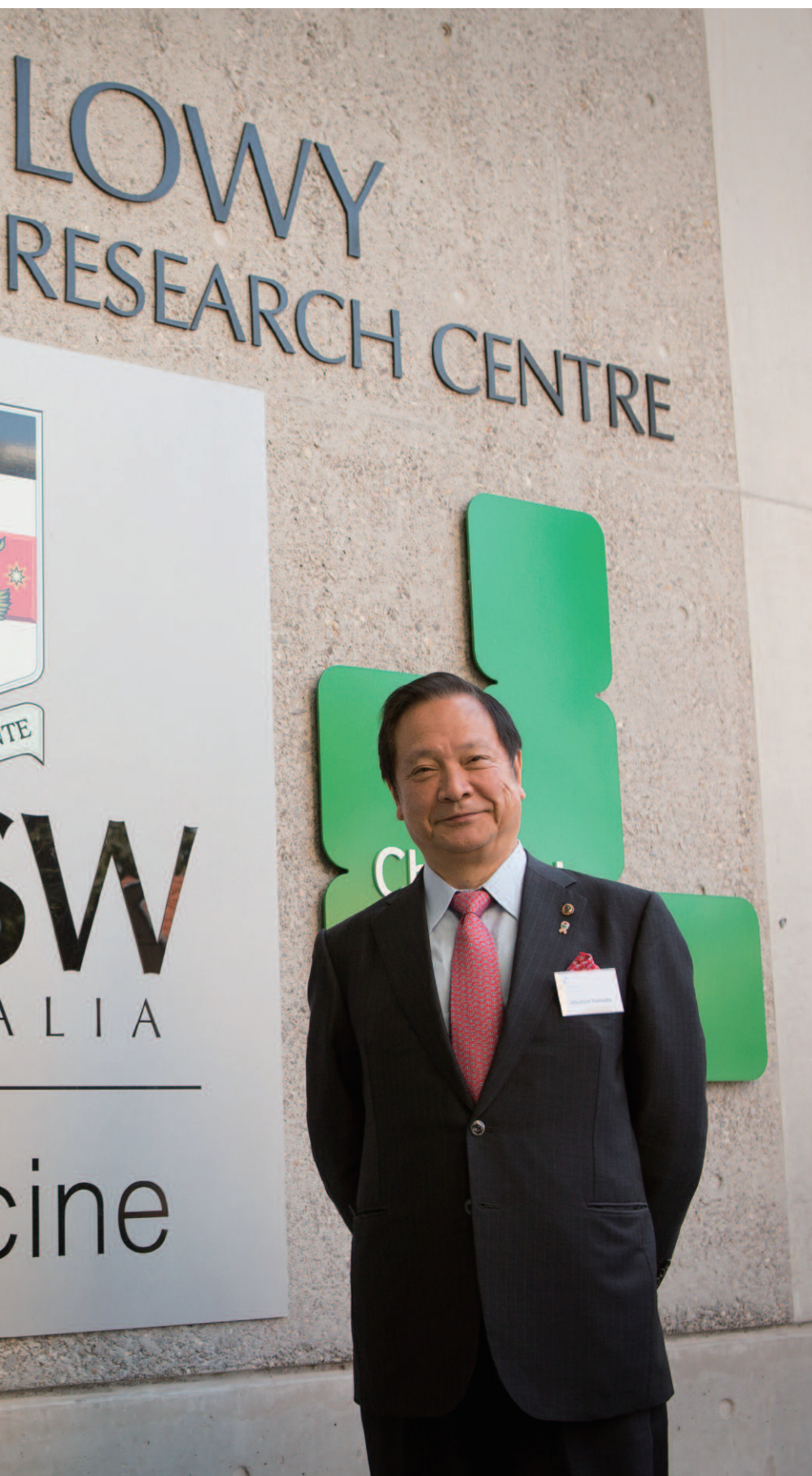
ブックマートは美しい公園の隣にあり、近くには小川も流れている。この店からは毎年10万オーストラリアドル（約860万円）もの古書が買われていく。今も児童書部門で働くホールディッチは、ブックマートの成功についてこう話す。

「この資金は地元のたくさんの慈善団体のために役立てられていて、それをとてもうれしく思っています」

特集：ＬＣＩＦ

ライオンズの心を代表するＬＣＩＦ

――交付金事業視察リポート

２０１６・17年度ＬＣＩＦ理事長　山田實紘

「国際協会の会長はライオンズのHead(頭)を代表するが、財団の理事長はライオンズのHeart(心)を代表する仕事だ」

ある元国際会長が、ライオンズクラブ国際財団(LCIF)理事長の仕事について述べたこの言葉は、私の脳裏に深く刻まれています。

LCIF理事長が世界各地を訪問する際には、大きく分けて二つの目的があります。一つは、LCIFの交付金によって、あるいはグローバル・パートナーシップに基づく資金提供によって行われているさまざまな奉仕事業を自らの目で見、事業にかかわる人々やライオンズの話を自らの耳で聞いてその効果を確認し、それを広くPRすること。そしてもう一つは、LCIFへの寄付が適切に扱われ、世界中で助けを必要とする人々のために役立っていることを伝えて、更なる協力を呼び掛けることです。

LCIF理事長に就任してからは国際会長の任期中以上に、世界のライオンズが取り組む奉仕事業の中身を詳しく把握することが出来るようになりました。ライオンズクラブの奉仕の神髄を目の当たりにし、会員の思いやりあふれる寄付を最大限活用していくのが、LCIF理事長の務めであり、「心を代表する」という言葉はまさに言い得て妙だと感じます。

オーストラリア：命を救う最先端プロジェクト

今年度LCIF理事長に就任して最初の訪問先は、オーストラリア・シドニーのガーヴァン医学研究所とシドニー子ども病院でした。この事業は前年度、私が国際会長の時にオーストラリアのライオンズから申請を受け、LCIF理事会で議論を重ねた結果、私自身のサポートがある意味後押ししたような形で承認されました。ライオンズの事業としてはあまり例のない最先端医療分野への支援であり、特定の小児がん患者に

のみ支援が与えられるようにも受け取られる事業だったために、再三にわたり申請の見直しがなされた末、やっと実現にこぎつけたのです。そうした経緯から、自分の目で現場を確認したかったというのが、真っ先に視察に訪れた理由の一つです。

事業内容を簡単に説明しますと、まず重度小児がんの子どもたちのゲノム（遺伝情報）を解析し、そのデータを基にその子に最適な治療方法を短期間に見極めます。そしてゲノム解析データと治療データを国際データベース化し、最終的には小児がんで死亡する子どもをゼロにすることを目指します。そのために、LCIF交付金によってシドニーで3年間に400人の子どもたちのゲノム解析を行い、これを手始めとしてデータベースのネットワークを拡大していくというのがこのプロジェクトです。

例えば、視力保護プロジェクトで発展途上国の人々にトラコーマの手術をする、といった伝統的なライオンズのプロジェクトも重要ですし、今後も継続していきますが、私は新しい分野、特に子どもの未来を切り開くような取り組みに、どんどん挑戦していくべきだと思っています。特に強調したいのは、このプロジェクトは単にLCIFの資金を投入するだけのものではないということです。長年にわたり、シドニー子ども病院の小児がんの子どもたちのために奉仕アクティビティを実施してきたオーストラリア・ライオンズが、その強いつながりと信頼に基づき、国内のライオンズ全体で取り組んでいるのがこのプロジェクトです。

このゲノム・プロジェクトによって、命が助かる子どもたちがいる。LCIFに寄せられた寄付が交付金となり、文字通り命を救っていく現場を目にすることは、私にとっても大きな励みになりました。

ガーヴァン医学研究所を訪れ、小児がんの子どもの命を救うゲノム解析プロジェクトの現場を視察

台湾：視力を守るネットワークの構築

LCIFへの寄付で日本と肩を並べるほどの貢献をしている300複合地区・台湾への訪問では、寄付だけでなく交付金事業にも献身的に取り組んでいることに強い印象を受けました。

LCIFに対して多額の寄付をしているから交付金をもらうのは当然だという考え方には、私は賛同出来ません。しかし、寄付による貢献が誇りとなってLCIFへの関心がより一層高まり、コミュニティーのた

めに交付金を有効に活用したいという意識につながっていくことは大切だと考えます。台湾はまさにその好例で、あらゆる役職のライオンたちが力を結集し、スケールの大きな交付金事業に取り組んでいます。

　訪問時にプレゼンテーションを受けた事業は、国の医療等では支援が行き届かない低視力リハビリテーション・センターのネットワークを、台湾全土のへき地まで設置していくというプロジェクトで、最近視力ファースト交付金を受けてスタートしたばかりの事業です。この事業のために台湾のライオンズ全体で委員会を立ち上げて資金を出し合い、リハビリテーション・センター設置の他にも大学医学部と提携してマニュアルを作成し、各地区でプロモーションを行っていくという説明がありました。

　現在の視力ファースト交付金プログラムは、一回限りの手術や設備の寄贈といった単発的な事業ではなく、この台湾のネットワーク構築のように長期的な状況の改善につながる事業を承認の対象にしています。こうしたいわば「魚を与えるのではなく釣り方を教える」というような事業は、組織作りから腰を据えて取り組まなければならないため、物品を購入して提供するだけの事業よりも大きな苦労を伴うものです。しかしだからこそ、ライオンズとしてのやりがいやリーダーシップを発揮する機会も大きく、地域に継続的なインパクトを与える結果につながります。

日本家屋を使ったチャリティーパークのオープン・セレモニー

　台湾ではまた、老朽化した戦前の日本家屋をライオンズが改修し、公園に隣接したそのスペースを起業家の会員に貸し出して、収益の一部をLCIFへ寄付するという、小さいけれども創意工夫あふれる活動も視察しました。この日本家屋は戦前の趣を残す畳敷きもそのままに改修されており、地元ライオンズが「日本との友情のシンボルだ」と話していたのが心に残りました。

インド：貧しい女性たちに可能性の扉を開く

　LCIF理事長として各地を訪問すると、その地域のライオンズが最も誇りにしている大規模な事業を紹介されることになります。

　インド・カルカッタではLCIFがパイロット・プログラムとして2014年に承認したマイクロエンタープライズ開発事業の一つを訪問しました。大都市カルカッタから1時間弱のガンガダルプール（Gangad-harpur）は、まさに日常が貧困そのものの村で、ほとんどの世帯が1日2ドル以下で暮らしているということでした。

　このプログラムは、貧しい人々が小規模な事業を始めるための資金として、極めて低い利息で少額の貸付を行う事業です。322複合地区では地元のマイクロファイナンス銀行と提携してこの事業に取り組み、既に900件近い融資を行い、更に事業を拡大しています。インドのマイクロエンタープライズ開発事業は、対象者を女性に限定している点が特徴です。現地を案内してくれた家族及び女性国際コーディネーターのサンギータ・ジャティア元国際理事は、これまでに貸し付けた900件で返済の滞納や不払いはゼロだと、誇らしげに教えてくれました。

　融資を受けた女性たちは地域ごとに20人ほどのグループを作り、毎月銀行の担当者が村に集金に訪れる日には帳面を持って集まり、返済をするのだそうです。返済はグループの連帯責任で、その月に返済が出来ない人の分はグループ内で補い合う仕組みです。女性たちは貸付を受けた資金でさまざまな小さな事業を始め、家計を潤しています。古新聞を買い取ってスナック菓子を入れるような紙袋を作り食料品店に売る事業を始めた人、1匹のヤギを飼育してミルクを売る人、小さな雑貨店を開いた人などです。私の訪問に合わせて集まってくれた女性たちは、事業を開始したことで子どもを学校に通わせ

られるようになった、生活が楽になった、と生き生きとした表情で報告してくれました。

マイクロファイナンスには一部に批判もありますし、ライオンズの事業として必ずしもどこでも実施出来るものではないでしょう。しかし、深刻な貧富の差があるインドにおいては確実に効果が表れており、ライオンズがその成果を誇りとして真剣に取り組んでいることは明らかでした。世界中で画一的な事業をする必要はなく、ニーズのあるところで自分たちの全力を尽くして支援をする、それがライオンズだと改めて感じます。

マイクロファイナンス事業の融資を受けて刺繍工房を立ち上げた女性

カナダ：ライオンズが運営する犬の学校

カナダのトロントでは、ライオンズが長年にわたりガイド犬の育成と提供を行うライオンズ・カナダ・ドッグガイド財団を運営。市民に愛され、高く評価されています。

廃校を譲り受けて開設した施設には大きな犬舎があり、盲導犬だけでなく、聴導犬、介護犬やセラピー・ドッグが訓練を受けています。その訓練のデモンストレーションを見せてもらいました。ここで育成されたガイドドッグを譲り受けるためには、希望者は数日から数週間、この施設に滞在して訓練を受ける必要があります。申請後、ガイドドッグの必要性と資格が認められた人たちは、全て無償で訓練を受けて、犬を譲り受けることが出来ます。そのため、カナダ全土から希望者がやってくるそうです。滞在者のための宿舎も視察しましたが、私も喜んで滞在したいと思うぐらい、とても快適な空間でした。

障害を持った人々にとって、犬がいかにすばらしいパートナーになるかは、皆さんよくご存じだと思います。盲導犬やガイド犬の育成を支援する募金活動に取り組んでいる日本のクラブも少なくないでしょう。この施設を訪問していた時にも、訓練を受けている方のご家族からライオンズへの感謝の言葉をたくさん耳に

しました。

　私が感銘を受けたのは、カナダ全土から希望者が集まってくるこれだけの施設を、ライオンズが自らオーナーシップを持って運営しているということです。もちろん、実際の訓練士や施設の管理は雇用されたスタッフが担い、企業やその他さまざまなパートナーの支援を受けていますが、元国際理事や地区ガバナー、その他ライオンたちが「パトロン」のリストに名を連ね、「ライオンズの学校」として複合地区全体が誇りを持ち、積極的に運営に関与しています。年に一度、地区のクラブ対抗ドッグ・レースをここで行ったり、資金獲得のために協力して盛大なウォーキング大会を開催したりしています。必要に応じてＬＣＩＦ交付金を申請して援助を受けながら、地元においてはライオンズの「顔」となる事業として定着しているのです。こういった事業の積み重ねがあれば、地域の人々から「ライオンズって何?」と言われるようなことはないだろうと思います。

◆

　ＬＣＩＦ理事長の任期が終わる今年6月までに、ドイツの国際平和村、トルコの難民支援など、訪問を予定している事業がまだ数多くあります。現地でどのようなライオンズに出会い、どのような活動を見ることが出来るのか、非常に楽しみにしています。

　各国で視察した多種多様なライオンズの活動で、その国の会員たちが具体的にどんな取り組みをしているのか、その情報を日本のライオンズの皆さんに伝えることも私の責任の一つだと受け止めています。日本でもこのような事業が出来るのではないか、この手法を日本に取り入れてはどうか、そんなことを常に考え、「よし、やってみよう」という意欲のあるライオンがいれば、私の経験を共有し、世界中の知己を紹介していく。国際会長、そしてＬＣＩＦ理事長として仕事をする機会を頂いたわけですから、私の得た知識と経験を今後の日本ライオンズのために役立ててほしいと願っています。

ブラジルでライオンズが支援する子どもたちの歓迎を受ける

ドイツ国際平和村は戦争で傷ついた子どもたちを助けている

エジプトのスペシャルオリンピックスの大会でアスリートと記念撮影

3月4日、ニューヨークで開かれた国連ライオンズ・デーで女性リーダーと共に

2015-16年度年次報告

人類に投資するLCIF

はしか撲滅など世界が直面する問題と戦うために、
LCIFは年間5千万ドルの寄付を目標に掲げている

子どもの命を救うはしか・風疹混合ワクチン接種を行うネパール人の医療従事者

ライオンズクラブ国際財団（ＬＣＩＦ）の目標拡大は、世界のニーズの高まりに比例します。

およそ50年にわたり、ＬＣＩＦは世界各地でライオンズの奉仕活動を支え、社会的に弱い立場の人々を支援し、その人生に変化をもたらしてきました。

ＬＣＩＦは２０１８年の設立50周年を前に、年間５千万ドルの寄付を目標に掲げています。確かに高いハードルではあります。しかし、この目標を達成する時、ライオンズが地域社会あるいは世界で更に大きな存在となることは間違いありません。

視力検査や浄水設備への資金提供、医療施設の建設、災害に見舞われたコミュニティーの再建など、豊富な寄付は多岐にわたる奉仕活動を可能にします。はしか撲滅もその一つです。予防可能と言われながらいまだに１日３００人の子どもの命を奪うはしか。ＬＣＩＦは、各地のライオンズを動員し、グローバルパートナーであるＧＡＶＩアライアンス、イギリス国際開発省、ビル＆メリンダ・ゲイツ財団と協力しながら、この伝染病の廃絶のために戦っています。２０００年から２０１４年の14年間で、推定１７１０万人の命を救ったライオンズは、世界を変える力を持っているのです。

世界のニーズが高まっている今だからこそ、ＬＣＩＦがすべきことがあります。２０１５・16年度、ＬＣＩＦは３９５０万ドルの寄付を集めました。しかし、交付金額は４５００万ドルに及びました。ライオンズが新たな世界的規模の奉仕活動を始めようとする今、ＬＣＩＦの資金援助は不可欠です。奉仕活動の需要の増大に合わせて、財政的支援の規模が拡大していくことは想像に難くありません。ライオンズの献身的なサポートがあってこそ、ＬＣＩＦは年間５千万ドルの寄付という高い目標を達成し、世界中の人々に多くの希望を与えることが出来るのです。

昨年度の私たちの活動の成果を、以下にご紹介します。

「私たちはパートナーと共に、何百万人もの子どもたちをはしかから救っています」

２０１５・16年度ＬＣＩＦ理事長 ジョー・プレストン

私たちは思いやりの重要性を証明している

LCIFはかつてないほど多くの人々を支援している

人道的支援

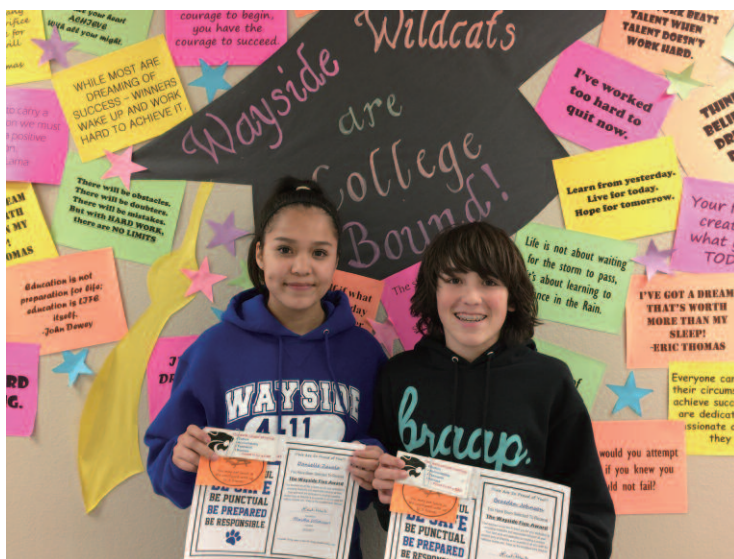
ケニアの首都ナイロビで、何時間もミシンに向かって作業を続けるメアリー・ダンド（写真）。ケニア最大のスラム街キベラで暮らすダンドは、LCIFとライオンズの支援で小口融資を受け、自分自身のビジネスをスタートさせることが出来ました。子ども用の運動着やセーターを縫製する仕事が軌道に乗り始めたダンドのために、家主は店を拡張してくれました。彼女は、LCIFのマイクロエンタープライズ開発事業に参加した女性の一人です。

このプロジェクトは、起業や事業拡大のために少額の資金を融資することで、女性の自立を促すと共に、困窮した家族に、より良い暮らしを提供することを目的としています。ケニア411A地区では、地元の金融機関ASAケニアの協力の下、貧しい生活を送る女性に人生を切り開くチャンスを与えています。

青少年育成

「では皆さん、今すぐ校長先生の所へ行きましょう」

作文の授業を受けていた中学1年の生徒たちに向かって、リア・ロバーツ先生が言いました。彼らが何か悪いことをしたからではありません。生徒たちの立派な行動を校長先生に伝えるためです。

それは授業中、ある一人の生徒が、恥ずかしがって自分の作文を発表出来ずにいた時のこと。クラス全員が彼の名前を呼び、声援を送ったのです。それでも発表出来なかったその子のためにロバーツ先生が代読を終えた時、笑い声を上げる生徒は一人もおらず、彼の健闘をたたえる温かい雰囲気が教室中に広がりました。ライオンズクエストが導入されて以来、テキサス州フォートワースにあるウェイサイド中学校（写真）では、このような肯定的な雰囲気が教室にあふれています。ロバーツ先生は、LCIFの社会性・情動学習プログラムであるライオンズクエストが、生徒のモチベーションや集中力の向上、積極的な社会参加、思いやりの精神を育んでいると確信しています。フォートワースのイーグルマウンテン・サギノー独立学区ではノボ財団から30万ドル規模の支援を受け、ライオンズクエストが導入されました。

これまでおよそ100カ国で実施されてきたライオンズクエスト。60万人以上の教育者がトレーニングを受講し、1400万人以上の生徒がプログラムに参加しています。

視力保護

エルサルバドルでは、人々は危険なギャング集団に脅かされながら貧困にあえいでいます。医療施設もごくわずかで、地域によっては一つもありません。家族が子どもの視力に問題を感じても、連れて行ける場所がどこにもないのです。首都サンサルバドルにすら、国内唯一の国立小児専門病院、ベンジャミン・ブルーム小児病院があるだけです。このような状況下で、LCIFとライオンズが協力し、エルサルバドルの子どもたちに視力矯正の機会が与えられました（写真）。地元D2地区のライオンズは5万3601ドルの視力ファースト交付金を受け、視力障害を持つ子どもたちのための国家プロジェクトを立ち上げました。この交付金はインフラ整備や人材育成に利用され、28人のアイケア専門家を訓練することが出来ました。LCIFを通して、ライオンズはエルサルバドルを始め世界各国で視力保護に努めています。

災害支援

2015年夏、西太平洋地域を襲った台風13号は、大雨・強風・洪水・地滑りなどさまざまな災害を引き起こし、多くの命を奪いました。人々は水や電気などのライフラインを絶たれ、住む家を失いました。こういった状況に際し、LCIFは直ちに緊急援助交付金1万ドルを支給、204地区ミクロネシアのライオンズはサイパンでの救援活動に取り組みました（写真）。また、300複合地区・台湾に対し、大災害援助交付金20万ドルを支給。緊急援助物資の購入や長期的な再建計画への資金として利用されました。LCIF緊急援助交付金プログラムは、ライオンズやパートナー組織が災害支援活動を行う際の資金的サポートを提供するものです。災害が発生した際、被災者救援を誰よりも願うライオンズのためにLCIFはあります。

寄付者の一人であるアメリカ・ニューヨーク州ウェストヘムステッド・ライオンズクラブのライオンテリ・オスターはこう言います。

「ニュースなどで災害に見舞われている人を見ると、とても心が痛みます。そういう人々のために、出来るだけのことをしたいと思うのです」

●LCIFの活動の詳しい報告についてはウェブサイト（LCIF.org）を参照

「世界中のライオンズの献身的な協力がなければ、LCIFがこうした結果を出すことはなかったでしょう。あなたやあなたの所属するクラブが人々の夢を実現し続けるために出来ることは何か、どうかよく考えてみてください」

2015-16年度LCIF理事長 ジョー・プレストン

子どもにはしか・風疹混合ワクチンを
接種させるため順番を待つ母親

10ドルの寄付で出来ること

- 10人の子どもに対するワクチン接種
- 自然災害に見舞われた家族への食料提供

今すぐ寄付しよう！

希望は手の届くところに

まずは5千万ドルの目標達成から

助けを必要とする全ての個人・家族の存在が、私たちの行動の原動力です。希望の未来を作り上げるためには、一つひとつの思いやりの行為、1ドル、1ドルの寄付が大切です。困難な状況下では時に希望を失うこともあります。そんな時、LCIFやライオンズの努力が、希望の光をもう一度よみがえらせてくれるのです。

その努力を実証する数字がありま す。2015・16年度、LCIFはより良い地域社会の形成を掲げた大規模プロジェクトを遂行し、440万人以上の人生に明るい未来や希望をもたらしました。LCIFのマイクロエンタープライズ開発事業のおかげで人生が明るくなったケニアのメアリー・ダンドのように、LCIFは多くの人々の人生を変えてきました。LCIFは多くの人のために重要な存在なのです。

LCIFは「あなた」の財団です。LCIFに寄せられた寄付は全て、ライオンズの奉仕活動を通じてコミュニティーに還元されており、1ドル残らず、透明性を持って管理され、最も大きなインパクトを与えられる奉仕のために活用されています。LCIFがアメリカの慈善団体評価組織「チャリティー・ナビゲーター」から6年連続最高位の四つ星を獲得しているのも当然と言えるでしょう。

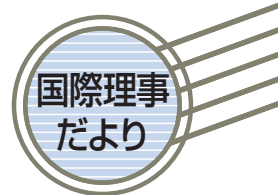
ボランティア組織に所属して奉仕をすることが縮小傾向にある昨今、年間5千万ドルの寄付は確かに野心的な目標です。この金額は、2015・16年度の目標金額より1千万ドルも多いのですから。

目標達成のためには、更なる献身や思いやり、寛容の精神が必要となるでしょう。しかし何よりも大切なのは、世界に140万人いるライオンズ・メンバーが一つになること。奉仕を通じて私たちが変える人生に寄り添い、人に奉仕する喜び、人々の笑顔を決して忘れないでいることです。

もしライオンズ・メンバー全員が10ドルずつ寄付するならば、この新たな目標を達成出来るばかりか、それをはるかに上回ることになります。LCIFとライオンズが支え合い続ける限り、世界中に希望の種はまき続けられるのです。

国際理事だより

■国際理事
中村泰久
（埼玉県・大宮北）

アテネ国際理事会報告

メンバーの皆様には、日頃活発な奉仕活動に尽力しておられますこと、心より敬意を表します。

今回は、3月24日から28日までギリシャ・アテネで開催された国際理事会について、決議内容の一部を報告させて頂きます。

国際理事会は初日の開会式と全体会議からスタートし、各委員会に分かれての会議が2日間、4日目に全体審議会が設けられています。この審議会では、各委員会で審議された全ての報告事項並びに審議事項が各委員長から一つずつ報告され、全体でのディスカションによって審議・決議されます。この4日間は朝から夕方まで、みっちり会議が続きます。体力的にも精神的にも大変ハードな毎日です。

今回の国際理事会で決議された内容で、特に日本ライオンズに関係する事項は次の通りです。

1. リジョン・チェアパーソンについては設置を推奨するが、その有無はこれまで通り任意とする
2. GMT（グローバル会員増強チーム）、GLT（グローバル指導力育成チーム）に加えてGST（グローバル奉仕チーム）を設置。この3チームがグローバル・アクション・チームとして、奉仕活動の拡大、メンバーの質の向上、会員増強を推進する
3. 標準版クラブ会則及び付則を一部変更
4. 理事会方針書を一部変更
5. 新クラブのチャーター申請書時におけるガイディング・ライオンの人数を2人から1人に変更
6. 国際第3副会長、国際理事選出規定を一部変更
7. 地区ガバナー諮問委員会の構成員にクラブ第1副会長を加える
8. 糖尿病戦略プラン（ビジョン・目標・戦略）を設定
9. LCIフォーワードを支援するためのクラブ及び地区レベルの優秀賞の改定

全体審議終了後、2022年〜24年の国際大会開催地として入札している都市の中から、投票によって次の都市が決定しました。

22年：インド・ニューデリー
23年：アメリカ・マサチューセッツ州ボストン
24年：オーストラリア・メルボルン

アテネ国際理事会の詳しい内容につきましては、八複合地区議長連絡会議での報告を通じて各地区ガバナーにお伝え致します。また国際理事会決議事項要約が協会ウェブサイト及び『ライオン誌』日本語版6月号に掲載される予定です。国際理事会の詳しい内容を直接聞きたい、またはご質問などございましたら、遠慮なくご連絡ください。

皆様と一緒に友情の輪を広げ、ライオンズクラブを発展させていきましょう！

「我々が求めているものは奉仕の先にある友情である」

——メルビン・ジョーンズ

LIONS NEWS CASSETTE

ライオンズ・ニュース・カセット

国連ライオンズ・デーと国際平和コンテストの大賞受賞者発表

3月4日、アメリカ・ニューヨークの国連本部ビルで第39回国連ライオンズ・デーが開催された。この催しはライオンズクラブと国際連合の協力関係を祝福し、国際的な課題への対応策について考える機会として毎年3月に開催されている。今回は初めて国連総会ホールが会場となったのに加え、国連公式ライブ&オンデマンド動画ポータルサイト「UNウェブTV」(webtv.un.org)でライブストリーム配信が行われた。会合はボブ・コーリュー国際会長と国際協会国連代表を務めるアル・ブランデル元国際会長が進行し、国連事務総長補でUNウィメンの事務次長を務めるラクシュミ・プリ氏や、ライオンズ会員でもあるスペシャルオリンピックス会長のティモシー・シュライバー氏らがスピーチを行った。

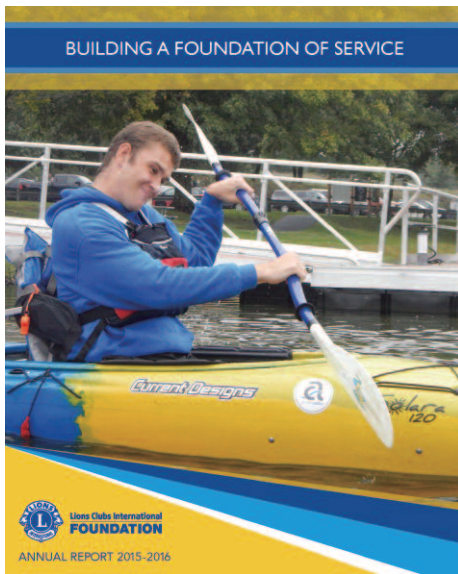
この催しの中ではライオンズによる二つの平和コンテストの表彰式も行われた。視覚障害を持つ児童を対象とする国際平和作文コンテストではアメリカ・オハイオ州デラウェアのチャーリー・ブラスコッターさん(12歳)が、国際平和ポスター・コンテストではタイ・バンコクのラッカナ・ミーパラさん(13歳)が大賞を受賞し、ボブ・コーリュー国際会長の祝福を受けた。

今年度の国際平和ポスター・コンテストには世界各国から約60万人の児童が参加。大賞の他に優秀作23点が選ばれ、日本からは331複合地区の山根結さん(13歳/スポンサー・クラブ:北海道・江別ライオンズ[クラブ])、336複合地区の伊藤愛梨さん(13歳/同:愛媛県・西条石鎚ライオンズ[クラブ])が受賞した。

設立50周年を前にLCIF交付金が総額10億[ドル]を突破

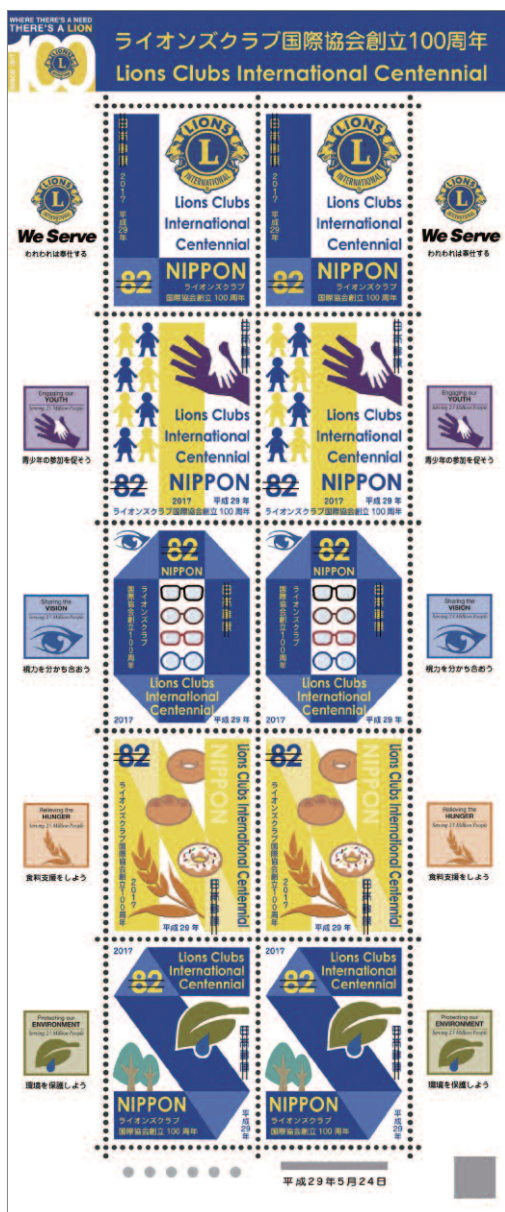
ライオンズクラブ国際財団(LCIF)は世界中のライオンズの人道奉仕を支えるため、視力保護、青少年、災害援助、人道奉仕の主要分野で交付金を出してきた。1968年に設立さ

れて以来のLCIF交付金総額が、10億ドルの大台に乗ったというニュースが、3月2日に国際協会から発表された。

LCIFが初めて交付金を拠出したのは1972年のこと。アメリカ・サウスダコタ州ラピッドシティーを襲った洪水により200人以上が命を落とし、5千人以上が家を失ったのを受けて、LCIFは救援物資の配布に奔走したライオンズの活動と、地域社会の再建を支援する資金を交付した。LCIFは災害援助の他にも、世界中で増大するニーズに応えるさまざまなプログラムを開発し、発展させて、幅広い人道奉仕事業に貢献している。

最新の報告書『2015-16年度LCIF年次報告』によれば、年度内に寄せられた献金は約3950万ドル（約44億8千万円＝1ドル113.5円換算、以下同じ）、交付金は453件、総額4520万ドル（約51億3千万円）を超えた。このうち、地域社会改善に投じられた交付金は約1380万ドル（約15億6千万円）、青少年支援が約140万ドル（約1億5千万円）、災害救援が約940万ドル（約10億6千万円）、はしかとの闘いが約790万ドル（約8億9千万円）、視力保護が約1290万ドル（約14億6千万円）だった。『2015-16年度LCIF年次報告』（英語版）はLCIFウェブサイト（www.lcif.org）でダウンロード出来る。日本語版は翻訳が済み次第、配布される予定。

ライオンズクラブの100周年を記念する郵便切手発行

1917年にライオンズクラブが創立されてから今年で100年目に当たることを記念した特殊切手「ライオンズクラブ国際協会創立100周年」が、5月24日に日本郵便株式会社から発行される。発行されるのは82円郵便切手で、1シート（10枚）の中に、国際協会のロゴマークと、100周年記念奉仕チャレンジの四つの活動「青少年の奉仕を促そう」「視力を分かち合おう」「食料支援をしよう」「環境を保護しよう」をイメージしたイラストの計5種類の絵柄があり、タテ5枚でLIONSの文字を表すデザインとなっている。売価は1シート820円、発行枚数は700万枚（70万シート）。全国の郵便局やオンライン通販サイト「切手SHOP」などで販売される。

100周年奉仕チャレンジは記念すべき100周年をライオンズの神髄である奉仕によって祝おうと2014年7月にスタートし、2018年6月までに四つの奉仕分野でそれぞれ2500万人、計1億人に奉仕しようという挑戦。世界中のライオンズがこの挑戦に参加し、1億人の目標は期限より1年9カ月早い2016年9月に達成。今年3月17日現在、各分野の奉仕の受益者数は「青少年」約4600万人、「視力」約2300万人、「環境」約4300万人、「食料」約3200万人で、合計1億4400万人に上っている。

シカゴ国際大会情報 2017年6月30日～7月4日

■インターナショナル・パレード
7月1日(土) 9時～

パレードのスタート地点は、ダウンタウンにあるミレニアム・パークの北西、レイク・ストリートとステート・ストリートの交差点。そこからステート・ストリートを真っ直ぐ南下し、バンビューレン・ストリートまで約1キロのコースとなる。日本の隊列はボブ・コーリュー国際会長の地元アメリカ・テネシー州に続く2番目にスタートする。

■インターナショナル・ショー
協会創設100周年を祝福するにふさわしく、大会を盛り上げるエンターテインメントには例年以上に力がこもっている。インターナショナル・ショーは開幕コンサートと、3日の閉会式前夜の閉幕コンサートの2回開かれることになった。日程と出演者は次の通り。

●開幕コンサート
7月1日(土) 18時～19時半／マコーミック・プレイス北館

大会のオープニングを飾るのは、ビーチボーイズ。「サーフィン・サファリ」「グッド・バイブレーション」を始めとするおなじみの名曲で会場を盛り上げる。

●閉幕コンサート
7月3日(月) 17時半～19時半／マコーミック・プレイス北館

1967年にシカゴで結成され今年で半世紀の節目を迎えるロック・バンド、シカゴが登場。

■LCI大会奉仕事業
大会に参加する世界各国のライオンやレオと共に参加出来る奉仕活動が、会場のマコーミック・プレイスやシカゴ市内のさまざまな場所で実施される。湖岸清掃やフードバンクでの食料品の袋詰め、都市型農園での作業などの活動が予定されている。募集人数には制限があり、事前登録が必要。登録費25ドル(返金不可)で、記念Tシャツと交通費、軽い飲料代が含まれる。

※国際協会ウェブサイト「LCICON」→「セミナー／イベント」→「LCI大会奉仕事業」ページに実施日程が掲載されており、オンライン登録が出来る

■ライオンズ・ナイト：シカゴ・ホワイトソックスVSニューヨーク・ヤンキース
6月29日(木) 19時10分～／ギャランティード・レート・フィールド

シカゴを本拠地とするホワイトソックスとヤンキースとのゲームが、ライオンズ・ナイトとして開催される。昨年、108年ぶりにワールド・チャンピオンとなったシカゴ・カブスは、大会会期中はシカゴを離れているが、本拠地球場のリグレー・フィールドでは見学ツアーが行われる。

※詳しい情報は国際大会ホスト委員会ウェブサイト(www.lions2017chicago.org)参照

■ライオンズ記念コンサート
(LIONS Jubilee Concert)
7月2日(日) 20時／フォース・プレスビテリアン教会 (Fourth Presbyterian Church)

1-A地区(イリノイ州)と111複合地区(ドイツ)のライオンズが合同で開催するコンサートでは、ドイツの管弦楽団がポップスやクラシック、民族音楽などを演奏する。ノースミシガン・アベニューにある歴史ある教会で開かれ、チケット収益はドイツでのライオンズクエスト事業と、イリノイ州ライオンズ財団の視聴覚障害児キャンプに活用される。前売券15ドル、普通券20ドル。

※詳しい情報は国際大会ホスト委員会ウェブサイト(www.lions2017chicago.org)参照

2022年国際大会は史上初めてのインド開催

アテネ国際理事会において、2022年の国際大会開催地をインドの首都ニューデリー、23年アメリカ・マサチューセッツ州ボストン、24年オーストラリア・メルボルンとすることが決まった。昨年3月の国際理事会で国際大会開催地を従来の5年先から7年先まで選定出来るよう方針が変更されており、アテネ国際理事会では22年から24年まで3大会分の開催地を選定した。インドを含む第6会則地域（インド・南アジア・アフリカ及び中東／ISAME）での国際大会開催は初。22年はインド独立から75周年の記念すべき年で、国際大会開催はインド・ライオンズの悲願だった。ボストンは06年に続き2回目、オーストラリアでの開催は10年のシドニー国際大会以来で3回目となる。

21年までの国際大会開催予定は次の通り。

第100回＝17年6月30日～7月4日／アメリカ・イリノイ州シカゴ

第101回＝18年6月29日～7月3日／アメリカ・ネバダ州ラスベガス

第102回＝19年7月5日～9日／イタリア・ミラノ

第103回＝20年6月26日～30日／シンガポール

第104回＝21年6月25日～29日／カナダ・モントリオール

会議録

■第2回複合地区ライオンズクエスト委員長【ウェブ】連絡会議（2月3日）①議事進行について②前回会議要録の確認及び前回以後の活動③LCIFからのアンケートについて④JIYDへの質問及び要望

■第8回ライオン誌日本語版委員会（3月6日）①ライオン誌日本語版の運営②2017年3月号（2月20日見本／9万5400部発行）出来③4月号記事内容の確認④5月号以降台割（案）と主要記事予定⑤ライオン誌デジタル化⑥その他

解散／合併クラブ

■解散クラブ

3月＝静岡県・浜松若葉（合併）／島根県・金城抱月

■合併クラブ（合併前のクラブ）

静岡県・浜松西（浜松西／浜松若葉）

訃報

■元国際会長

ホアン・フェルナンド・ソブラル（ブラジル・サンパウロ）

1976・77年度国際会長を務めたソブラルが1月4日死去した。享年90。69～71年国際理事を務め、76年6月にハワイ・ホノルルで開催された国際大会でブラジル初の国際会長に就任した。写真は日本公式訪問時のスピーチの様子。

■元国際役員

箱田重之（福岡県・若杉福岡）

2月11日死去。84歳。99年度337・A地区ガバナー。献眼。

森田浩一郎（東京上野）

3月8日死去。91歳。75年度302E・A地区ガバナー、302E複合地区ガバナー協議会議長。

宮原陽（長崎県・佐世保）

3月13日死去。91歳。88年度337・C地区ガバナー。

■献眼者

2月＝髙倉章（福岡県・久留米りんどう）／宮崎清紀（長崎県・諫早東）

◎ライオンとしての多大な功績をたたえ、ご冥福をお祈り申し上げます。

WHERE THERE'S A NEED THERE'S A LION
SINCE 1917

ライオンズの100年の歴史と奉仕活動の足跡を伝え、その真価を物語るストーリーの数々を紹介します。
写真とテキストは100周年ウェブサイト（lions100.lionsclubs.org）でも閲覧出来ます。

広がるライオンズの誇り

ライオンズクラブ国際大会の代議員の投票により、１９８７年7月、世界中の女性にライオンズクラブ入会の門戸が開かれることになりました。

協会が創設された初期には女性会員が在籍するライオンズクラブもありましたが、ライオンズの会則は１９１８年に会員を男性に限定するものへと変更されました。その後、女性が再び国際協会の会員として迎えられるまでには、ほぼ70年の歳月を要しました。

その一方で多くの女性が、ライオンズ会員である夫や友人、家族と共に奉仕活動に参加していました。そんな女性たちによってライオネスクラブも組織されます。最初のライオネスクラブは１９２０年にアメリカ・イリノイ州クインシーで、ライオンズクラブの活動を支援するために結成されました。

重度の障害がある子どもと触れ合う台湾の女性会員

１９８０年代になると、ライオンズは会員に女性を加えるための措置を講じ始めます。アメリカでは同じ頃、民間のクラブが会員を男性に限定する権利に異議を唱える訴訟がいくつか起こされていました。しかし１９８６年の国際大会では、女性を入会させようという国際会則改正案がわずかな差で却下されました。

１９８７年5月にはアメリカ最高裁が、事業者による性差別を禁じるカリフォルニア州法はロータリークラブにも適用される、との判決を下します。ライオンズクラブ国際協会はこれを受けて、アメリカ国内で女性会員を受け入れることになりました。その年に台北で開かれた国際大会で国際会則が改正され、正式に女性が会員として迎えられることになりました。台北国際大会の終了からわずか2カ月で３５００人の女性が国際協会に加わり、新鮮な視点と奉仕の手をもたらしてくれました。それから5年間のうちに、女性ライオンズは5万5千人に達しています。

ライオンズクラブにおける女性の比率は過去30年間で大幅に増加しました。２００４年に国際協会が設けたタスクフォースでは、女性の関心に訴える地域社会事業を見極めて企画し、会員候補を発掘し、新クラブの結成を促す作業に当たっています。現在、女性会員は世界中で全体の27・9％（２０１６年12月末）となっており、新会員の約4割が女性です。その比率が更に高い地域もあり、中南米、カリブ海、メキシコにまたがる会則地域では、全会員の45・7％を女性が占めています。

自らの時間と労力を投じて地域社会を支援したいと願う女性たちにとって、ライオンズの強力な奉仕の枠組みは魅力的なものです。彼女たちの努力と熱意によって、ライオンズクラブは次なる奉仕の一世紀に備え、組織の繁栄と国際性を高めていくことが出来るでしょう。

●宮城県気仙沼市

復興屋台村 気仙沼横丁が閉村

3月20日、気仙沼市の仮設商店街「復興屋台村 気仙沼横丁」が閉村した。震災があった2011年11月のオープンから5年4カ月、気仙沼復興のシンボルとして、市民やボランティアなど多くの人から親しまれてきたが、区画のかさ上げ工事に伴い土地を明け渡すことになった。

営業終了に伴い18日に行われた閉村式では、関係者や市民などおよそ150人が集まる中、店主たちが「5年4カ月の間、ありがとうございました」と全員であいさつ。その後、全国に感謝を届けようと、集まった人たちと一緒に300個の風船を空に放った。また最終日の20日には、全国から大勢のファンが駆け付け、常連客や店主たちと共に名残を惜しんだ。

屋台村誕生とライオンズの支援

東日本大震災では、気仙沼全体で約7割、屋台村が設置された南町はほぼ100%の飲食店が津波で流された。オープン時には、ご当地グルメ「気仙沼ホルモン」や寿司、マグロ料理、ラーメン、うどんなどの飲食店の他、鮮魚店や八百屋などの22店舗が入居。屋台村プロジェクトは、これら店主の復興支援だけではなく、市民や観光客、ボランティア、復興関係者などが集まる拠点を作り、港町ににぎわいを取り戻そうと企画された。

屋台村の土地は震災前、駐車場だった所で、これを市が借り上げ、中小企業基盤整備機構がプレハブ店舗を建設。構想を知った332-C地区（宮城）が、LCIF東日本大震災指定交付金で厨房設備などを提供した。また地元気仙沼ライオンズクラブと宮城県・富谷ライオンズクラブが支援に乗り出した他、「提灯（ちょうちん）の灯りで真っ暗な街に温かな明かりをともしたい」という屋台村事務局の思いに共鳴した334-B地区（岐阜／三重）の会員有志が、提灯を贈る運動を展開。日本一の提灯産地・岐阜市の㈱浅野商店（藤田宜良社長：岐阜南ライオンズクラブ／浅野有誠専務：岐阜長良川ライオンズクラブ）から原価以下で提灯の提供を受け、SNSなどで情報を知った全国の会員が活動に参加した。

その後、気仙沼横丁では「Ippinグランプリ」や「横丁ライジング」、「ユニセフ 祈りのビッグツリー」など、今まで気仙沼にはなかったイベントを次々と打ち出し、被災した人たちに勇気を与えてきた。が、屋台村はあくまでも「仮設」ということで、今回、残念ながら閉村を迎えることになった。ただ、最後まで屋台村で営業を続けていた15店舗のうち、移転先が決まっているのは3軒のみ。12の店は再建のめどが立っていない。

そうした中、「心のよりどころでもある横丁を残したい」と願う人たちにより「復興屋台村 気仙沼横丁を残す会」が発足。屋台村事務局長の小野寺雄志さんら関係者も加わり、屋台村として営業出来る土地の選定を進めると共に、クラウドファンディングによる資金集めも始めた。現在、気仙沼では土地や店舗が少ない上、テナント料も高騰しており、決して簡単な道ではない。が、「残す会」では「人と人とのリアルなやり取りが生まれる横丁スタイルを残したい」との思いで、復活プロジェクトを推進している。

屋台村周辺では既にかさ上げ工事が始まっている

気仙沼横丁店主の皆さんから

「震災から早6年。日本全国各地からいろいろな方にご来店頂きました。お客様、知人、友人になって頂き、本当にうれしかったです！　皆様の温かい心を忘れず、これからも力強く生きていきます。機会があればまた気仙沼に来てください。また会える日を楽しみにしています！　ありがとうございました！」（浜市水産）

「震災の年の11月から今もなお『がんばってね』『大変だったね』『応援しているよ』のお声掛けや遠方から来店くださった皆様の温かい思いが、私たちの励みになり、心の中にずっと残っています。本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます」（こばらぼ）

「震災の年の11月にオープンして5年と4カ月。真っ暗な街の中に数百個もの赤提灯の灯りと共に、私たち震災で店を流された店主たちにも明かりをともして頂いて今があります。この間、全国からたくさんの方がご来店くださり、皆様との出会いと絆に心から感謝申し上げます。あたみ屋の明かりを消さぬように、今、出来ることをしながらがんばりますので、よろしくお願いします。ありがとうございました」（あたみ屋）

最終日は名残を惜しむ常連客や全国から駆け付けたファンで遅くまでにぎわった

「全国、全世界からご支援頂き、なんとか今日までやってこられました。ありがとうございます。ご支援頂いた皆様への恩返しは七輪屋を継続することと思ってやってまいりましたが、残念ながら移転先が決まっておりません。力足らずでご恩に報いることが難しい状況です。しかし、最後の最後まで悪あがきしながら営業させて頂きます」（七輪屋500）

「津波で店舗が流され、親友も失いました。屋台村への出店は皆様との出会い、絆の始まりでした。時には心が折れるようなこともありましたが、2度3度と来店してくれるお客様に助けてもらい、やる気も起こさせてもらいました。だからこそ走り続けられたのだと思います。皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。いつの日か皆様とお会い出来る日を楽しみに。これまでの応援、ご支援に心から感謝申し上げます。ありがとうございました」（はまらん家）

（取材／鈴木秀晃）

楽しさはすぐそこに
バリアフリーな遊び場の建設

南米アルゼンチンのビジャ・レヒナライオンズクラブは、障害を持つ児童や青少年が通う学校でボランティア活動を行っていた。

そんな中、2012年に発行されたLCIFのニュースレターに当時のウィンクン・タム理事長が、障害者に対するボランティアについて語る文章が掲載された。

「想像してみてください、子どもたちの喜ぶ顔を。障害を持つ子どもたちは、遊べる環境が整って初めて、遊びに参加することが出来るのです」

この言葉を受けてビジャ・レヒナライオンズクラブは、地元の第5特別支援学校にバリアフリーの遊び場を建設することにした。ここには、障害の有無に関係なく、誰もが利用出来るメリーゴーランドやブランコ、シーソーなどが置かれた。また車椅子のままでも利用出来るように位置を高くした砂場や、触って楽しめる遊具パネル、手話用・点字用パネルなど、感覚機能を刺激する遊具なども数多く配置された。

遊び場の建設には、LCIFからの交付金1万7211ドルと、ビジャ・レヒナライオンズクラブのメンバーが集めた寄付金が使用された。同クラブは遊び場建設のためにさまざまな募金活動を実施。「夢のためにペダルを漕ごう」と題した24時間自転車マラソンには、地元の消防隊員もボランティアで参加し、大会を盛り上げてくれた。

第5特別支援学校には現在、視覚障害や認知障害、あるいは身体的障害を持つ6歳から25歳までの生徒が、100人以上在籍している。学校では個々の能力に合わせた普通授業の他に、職業訓練も行っている。ビジャ・レヒナライオンズクラブとLCIFによって完成した新しい遊び場は、単にレクリエーションの場を提供するだけではなく、認知力や社会性を養い、情緒的な成長を促す教育の場を提供することとなった。

またビジャ・レヒナライオンズクラブは学校でのボランティア活動にも、今まで以上に積極的に取り組んでいる。学校の周りを生徒たちと散歩する日常的な取り組みの他、毎年8月には子どもの日のイベントを実施、甘い飲み物やおやつを持ち寄り、ゲーム大会を開催している。

第5特別支援学校の生徒たちはライオンズのおかげで、仲間と一緒に大いに遊び、そして学び、遊び場は子どもたちの笑顔で満ちあふれている。

（ジェイミー・コニングスフェルド）

新しい遊び場で遊ぶ第5特別支援学校の生徒

LCIF FILE

LCIF Development Update

LCIF Development Update

1日100円が世界の子どもたちを救う

LCIF創設50周年に向けての本年の目標900万ドルに対し各地区とも積極的に努力をして頂き、目標達成まであと一歩のところにきています。ここで目標達成のための具体案の一つとして、1日100円運動「〇〇したつもり貯金」を始めることを提案します。日本中で取り組めば、3年後には全会員がMJFになっていることになります。

日本でも近年、東日本大震災や熊本地震に対し世界各地から救いの手を差し伸べて頂きました。現在、337-E地区は地震で大きな被害を受けた益城町の学校給食センターの再建事業など、LCIF交付金による復興事業に力強く取り組まれています。自然災害は世界中どこででも起こり得ることです。私たちは今、世界に向けて投資をしていると考えてください。

さて、次年度からLCIFクラブ・コーディネーターの任命が必須となります。LCIF委員長を任命している場合は兼任可ですが、新たに任命する場合はクラブ会長経験者等LCIFに対して十分な知識があり、その活動に理解のある方を選んで頂きたいと考えます。LCIFクラブ・コーディネーターは理事会の構成員となります。主な任務はLCIFに対する会員の理解を深め、クラブが積極的にLCIF献金や交付金の活用に参加されるよう促すことです。更に来期は名簿を作成し、本部との連絡網を構築することになりますので、各クラブともLCIFコーディネーターを任命してくださいますようお願い致します。(337複合地区LCIFコーディネーター/大石隆敬)

■LCIF献金現況報告

献金額単位：ドル　　2017年2月28日現在

地区	献金額	1人当たり献金額	1人当たり前年度献金額	MJF口数	クラブ参加率
330-A	381,155	82.3	38	299	55.7%
330-B	448,903	110.6	118	282	89.8%
330-C	148,745	74.2	51	94	90.6%
330複合	978,803	91.5	71	675	74.8%
331-A	241,154	104.1	121	183	84.9%
331-B	84,310	37.1	56	56	62.4%
331-C	79,047	49.5	56	48	80.4%
331複合	404,511	65.4	80	287	74.6%
332-A	110,595	61.8	33	82	87.3%
332-B	75,333	47.9	70	45	86.8%
332-C	130,375	94.1	79	111	82.1%
332-D	168,668	84.3	104	140	84.7%
332-E	58,995	34.7	41	46	60.7%
332-F	40,762	38.1	59	28	45.5%
332複合	584,728	61.4	62	452	76.3%
333-A	182,946	70.5	50	131	91.8%
333-B	97,347	85.2	92	78	89.6%
333-C	149,373	49.6	78	116	59.0%
333-D	129,701	73.1	109	102	77.8%
333-E	264,593	89.8	85	215	87.8%
333複合	823,960	71.8	80	642	77.5%
334-A	1,023,698	226.5	283	991	91.7%
334-B	246,170	79.6	89	212	72.2%
334-C	242,521	81.7	97	205	77.5%
334-D	438,201	114.4	97	385	90.8%
334-E	171,340	90.5	124	156	73.1%
334複合	2,121,930	130.1	150	1,949	83.0%
335-A	114,235	59.0	60	86	76.5%
335-B	585,882	114.0	120	483	93.5%
335-C	299,267	80.8	103	222	95.7%
335-D	94,781	54.9	120	73	98.4%
335複合	1,094,165	87.5	105	864	91.6%
336-A	333,613	65.0	63	265	90.5%
336-B	134,179	46.7	66	45	60.6%
336-C	202,386	65.0	62	149	83.3%
336-D	131,724	43.6	69	59	91.4%
336複合	801,902	56.7	64	518	82.6%
337-A	294,470	68.4	115	234	71.6%
337-B	200,406	90.8	60	135	87.0%
337-C	247,978	90.4	124	187	87.5%
337-D	95,721	43.1	55	63	67.1%
337-E	80,975	51.0	55	57	70.7%
337複合	919,550	70.4	90	676	76.4%
全国	7,729,549	82.3	91.6	6,063	80.1%

獅子吼

みんなの力を結集して

吉岡　敏子（兵庫県・稲美）

日本人の米離れが進む中、米の消費拡大と農家の収入確保を狙い、2005年に組織を立ち上げ、米粉パンの製造販売に着手した。組織の名称は、お米を扱うことから「いなみマイマイ工房」と名付けた。

朝早くからの活動になるため女性の仕事としては難しいのではないかと、一歩踏み出すまでには相当な覚悟がいった。子育て世代の女性にとって、これは社会進出の機会でもあるが、家庭と仕事の両立は家族の理解無くして成り立たないからだ。

思い切ってスタートを切った当初、メンバーは5人、売り上げは時給にしてわずか100円だった。ガソリン代で終わりである。それでも「パンを焼いてハワイへ行こう」をみんなの夢に、代表である私の名義で貯金用の銀行口座を開設し、少しずつ積み立てを始めた。月1回の定例会議や食事会を楽しむことで、時給が安いのを補った。

その後、おかげさまで年々収入が増え、時給も少しずつ上がり、ボーナス支給も可能になった。家族の理解にも助けられて、毎年旅行にも行けるようになった。東京スカイツリーや九州、更には韓国・済州島、香港、バリ島などで思い出を重ね、遂に10年目の15年に、目標であったハワイ旅行が実現したのである。

ここまでたどり着けたのは、米粉パンだけでなく、菓子、惣菜、味噌などいずれも地域農業者の生産物を利用した商品開発や、飲食店、露天商等の営業許可を取り、地域のイベントにも率先して参加してきたためだと思う。また自分たちが作った商品は自分たちで配達する。それはお客様の声や反応を直接感じることで、新しい商品開発や研究に役立てられるからだ。例えば小麦アレルギーを持つ子どもの親や、おばあちゃんからの要望で、「グルテンレス米パン」が誕生した。

商品の原材料となるお米は地元農家に栽培をお願いし、全量買い上げている。兵庫県稲美町は都市近郊の農業地帯で、葉物野菜、キュウリ、トマト、イチゴと何でも採れる。だからこそ、若い農業者を応援したいという気持ちで、農産物を利用することを心掛けている。

また、いなみマイマイ工房では町内小学校5校の学校給食に米粉パンを供給している。そうした関係もあり、中学生が職場体験をする「トライやるウィーク事業」で生徒を受け入れている。子どもたちに地元の食材を使って手作りする食べ物の良さを体験してもらうため、巻き寿司やパン、ケーキ作りも教えている。

現在、工房のメンバーは40代から70代と多様だが、皆それぞれに自分の生活ペースに応じてフレックスタイムで出勤している。年金受給者も、孫のためや自分の趣味に自由に使えるお小遣いになると喜んで働いてくれている。中には自家用車を買った人や、家のリフォームに使った人もいる。

寿司部門は早朝3時30分から、パン・ケーキ部門は朝5時からスタートする。仕事は午前中に終わり、午後は自分たちの好きなことに費やす。これからも定年制はしかず、元気なうちはみんなで一緒に力と知恵を出し合って、がんばっていきたいと思っている。

（クラブ第1副会長／10年入会）

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領：
会員及び家族によるエッセー、提言など。1,600字程度

学校教育に対する側面的支援活動

小銭 和明（岡山県・倉敷東）

現在「待機児童問題」は全国的、国民的な関心を呼び、さまざまな議論に発展しています。ここ岡山県倉敷市においてもご多分に漏れず、この問題が顕在化しています。

社会構造の変化や共働き世帯の増加、あるいは女性の社会進出等々によるこうした状況は、乳幼児だけではなく就学後も同様。学童保育施設（もしくは放課後児童クラブとも言うらしい）が各地で盛況のようです。

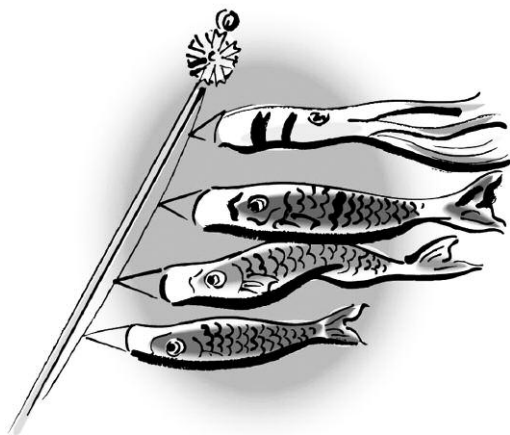
学童保育施設では、小学校の授業終了後14時～19時頃までの時間に子どもたちを預かり、宿題や自由研究などを行っています。市町村が直接運営するケースもありますが、NPO法人や任意団体が運営しているものも多いと聞きます。そういえば昔も、学校から家へ帰っても家族が留守のため鍵を持ち歩いている児童を「鍵っ子」と呼んでいた時代がありましたが、現代ではこのように変化をしてきました。

当クラブの位置する倉敷市茶屋町地区は温暖な気候に加え、ありがたいことに地震、津波、台風などの自然災害があまりありません。更に足回りの良さや生活利便性の高さが評価され、近年、戸建てや賃貸住宅が数多く建築された結果、一気に人口流入が進みました。当地の市立茶屋町小学校は倉敷市内ではもちろんのこと、岡山県下でも最多の1400人余りの生徒が通う超マンモス小学校となりました。その影響で茶屋町小学校区では二つの学童保育施設が活動しており、どちらも大盛況でなかなか入所出来ない、いわゆる「待機児童」を数多く抱える状況が続いておりました。

そんな中、学童保育施設運営者からそうした窮状の説明と、私の実家を学童保育施設として利用させてほしいとの切実な要請がありました。実家は12年ほど前に両親が他界した後は、1階にある仏壇に月に2～3度花やお供えをあげる程度の空き家となっておりました。小学校のすぐ近くにあることや、構造的な基準を満たしていることも好条件でした。

そこで他の兄妹とも話し合い、いろいろな意見が出ましたが、最終的に依頼を受けることにしました。この学校教育に対する側面的な支援を行うことが、当倉敷東ライオンズクラブのチャーター・メンバーであった父の遺志を、最も尊重することになるという結論に至ったのです。

こうして2015年春から、学童保育施設としての利用がスタートしました。ちなみに当クラブの結成以来のアクティビティ・スローガンは「青少年健全育成」です。

一般住宅であるが故、学校施設には無いぬくもりが子どもたちにも好評のようです。自分の家やおじいちゃん、

おばあちゃんの家に帰ってきたかのように、のびのびと過ごす子どもたちの姿を見るにつけ、ささやかながら地域貢献が出来たかなと、うれしく感じております。

今後、子どもたちが育っていく過程で、時には我が家で過ごした時間を思い出しながら、健全に成長してくれることが楽しみです。

（クラブ会長／94年入会／63歳）

ユースキャンプでOB生が大活躍

伊藤 紳二郎（愛知県・弥富）

334複合地区は毎年、A～Eの5準地区全てのYCE来日生を集めて、夏期来日YCE生複合ユースキャンプを開催しています。キャンプの内容は、複合地区YCE委員長、地区実行委員と、複合地区YCE・OB連絡会が協議して決定します。

今年度も、2016年7月18～26日にユースキャンプが開催されました。今回の参加者は、来日生が23カ国から33人。スタッフは派遣生OB9人、複合地区YCE委員会の正・副委員長と実行委員長、各準地区YCE正・副委員長の12人他。

スタッフだけで総勢20人以上になりますが、キャンプ運営に関しては派遣生OBが中心となり、来日生のお世話をしています。

キャンプの日程は8泊9日。前半は岐阜県高山市にある標高1500メートルの乗鞍青年交流センターで5泊。同県飛騨市にあるスーパーカミオカンデや、奈良県東大寺を見学しました。後半は京都宇多野ユースホステルで3泊。乗鞍から京都へ向かう途中、ナガシマスパーランドのジャンボプールで遊んだり、金閣寺を見学したり、生け花を体験したりしました。

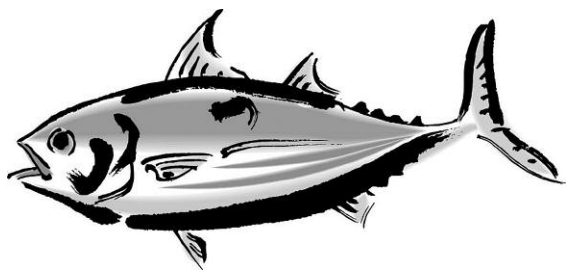
キャンプ・スタッフの派遣生OBは、自分たちが各国のキャンプに参加した時の経験を生かし、来日生に日本文化や伝統、生活習慣等を伝えるため、さまざまな体験や学習のサポートをします。またユースキャンプ全体の進行も派遣生OBが行い、精神的にも重圧の掛かる重要な役を担います。そのためキャンプ・リーダーを中心に、下見や事前打ち合わせを重ね、十分な準備をして本番に臨みました。

しかしそれでも、さまざまな国から集まっているYCE生をまとめ、リードしていくには多くの葛藤が生じます。表面的には和やかに見えても、生活習慣や考え方の相違から、少しでも気を抜くと彼らの感覚で行動し始めたり、不満を言うこともありました。

そんな彼らに言うことを聞いてもらうのは苦労の連続です。時には来日生を集めて意見交換をし、問題を解決するために日本の習慣やルール、施設のルールなどを事細かに説明していました。理解を得るために、我々には想像も出来ないほどの心労があったと思います。それを大学生・高校生が行っているのです。その姿を見て、こちらも涙が出そうになることがしばしばありました。

今回のキャンプ・スタッフは全員334・A地区（愛知県）のOB生が担っていました。近年はA地区が中心となり、複合のキャンプを支えているのが現状です。334・A地区の派遣生OB会のように積極的な活動をしている組織は、国内ではほとんど無いのではないでしょうか。現在、会員数は71人。全員学

生ですが、今回のキャンプも含め多くの経験を積み、社会へ大きく羽ばたけるよう、皆様のお力添えを頂きながら育っていってほしいと願っております。
　キャンプのリーダーとスタッフが涙を流すことも、キャンプ中、幾度もありました。意見の食い違いや、来日生をリードする難しさなど、さまざまな思いが交錯した悔し涙もあったかもしれません。しかし解団式でスタッフが流した涙は、無事に終了出来た安堵と共に、苦労と努力の詰まった宝物になったと信じています。
　もし皆様が当334‐A地区派遣生OB会のスタッフに会うことがございましたら、ねぎらいと称賛の言葉を掛けてあげてください。お願い致します。

（地区YCE委員長／05年入会／64歳）

石見空港でミツバチが飛ぶ

本橋　春彦（島根県・益田）

アジア初、空港でのミツバチ飼育！THE FIRST AIRPORT HONEY IN ASIA!

　空港内での養蜂事業はエコロジーを証明・アピールすることなどを目的に、ライオンズクラブ発祥の地であるアメリカのシカゴやシアトル、ドイツのフランクフルト等の空港で盛んに行われています。

　336‐D地区（島根県・山口県）内にあり、私が代表取締役を務めている石見（いわみ）空港ターミナルビルでも、2016年4月に「萩・石見空港ミツバチプロジェクト」がスタートしました。全日空グループの㈱ANA総合研究所との共同事業であり、農業生産法人㈱銀座ミツバチなどの後援を受けています。

事業の目的には次の三つがあります。

①環境指標生物であるミツバチとの共生により、空の玄関口である空港から、自然環境に恵まれた島根県の魅力をアピールすること

②地元を元気にする活動を提供すること（地産地消、地方にあるおもてなしパワー推進）

③地域ブランドの向上と、国内外の交流人口の拡大につなげること

　空港養蜂は国内には前例の無いものでしたが、巨大な飛行機と小さなミツバチ、どちらも羽があって空を飛ぶのだから相性がいいはずだ、とにかくまずはやってみよう、ということになったのでした。

　萩・石見空港（石見空港の愛称として02年にこの名称が決定）敷地内に、養蜂用巣箱10箱を設置。6〜8月の最盛期には約30万匹のミツバチが飛び交います。当初は200キロのハチミツが集蜜出来る予想でしたが、大きく上回る約300キロが採取されました。

　当地のアピールポイントは、周辺に広大な県立公園があること。また清流日本一に何度も輝いた一級河川の高津川を有する自然環境に恵まれていること。蜜がたくさん採れる無農薬の自然の樹木、春のニセアカシア、クリ、夏

獅子吼

のカラスザンショウ、ソヨゴ等が群生し、そこから育まれる高品質な100%純粋ハチミツが提供出来ることです。
　採れたハチミツは瓶詰めにして、空港の売店とオンラインショップで販売しました。初年度となった昨年は、130グラム入りの瓶を2千個製造して10月中旬に販売を開始、2カ月半で完売しました。加えて空港レストランでは、このハチミツと地元特産品とがコラボレーションしたメニューを提供。地元洋菓子店や地酒・地ビール会社との加工商品も共同開発しています。
　事業を企画した当時は右も左も分からない状況の中、広島県のNPO法人n・i・na（にいな）神石高原から講師を招き、年15回の指導を受けました。2年目を迎えた現在は、自立し、増産に向けた準備を行っています。今後は新たな販路開拓と、ミツバチのために近隣（半径2キロが蜜を運んでくる圏内）に多くの花を咲かせる活動も提案し、美しい景観を地元住民及び観光客の方々にも喜んで頂けるよう、更なる地域社会活性化への貢献に努力してまいります。
　ライオンズ会員の皆様のご来港を、ミツバチと共にお待ちしております。

（地域福祉活性化委員長／15年入会／59歳）

生涯スポーツ還暦野球

玉井　興司（山口県・下松中央）

　還暦野球という言葉を耳にしたのは、私が59歳の時でした。昔の早朝野球の仲間から「玉井さん、還暦野球を一緒にやりませんか」と誘いを受けました。その頃はスポーツ少年団でソフトボールの指導をしていたので、即答は出来ずに「考えてみましょう」と言葉を濁しましたが、心の中では野球の虫が踊り始めていました。60歳になってまた野球が出来ると。そして、59歳で還暦予備軍として山口県周南市にある周南愛球会というチームに入会しました。まだ予備軍ということで、週1日の練習には参加出来るものの、試合に出場することは出来ませんでした。ですから、その1年間はとてもうずうずしていました。
　それからやっと試合に出場出来るようになったのは、平成12年4月に始まった春のリーグ戦からでした。私の一番好きな野球を再びプレー出来る。本当に生き返ったような気持ちでいっぱいでした。ポジションは投手で1番打者。とても新鮮で、喜びの第2の野球人生のスタートでした。その時のチームメイトは16人で、チームは強くも弱くもなく、当時の山口県内にあった七つの還暦野球のチームの中で、3位から4位の順位でしたが、秋のリーグ戦では優勝出来るまでになりました。そして、全国大会、西日本大会と大きい大会にも参加出来るチームになり、週1日の練習も1日増えて、更には全国大会出場の常連チームとなったのです。
　ここ最近では、平成27年度に福井県で開かれた全日本選抜還暦軟式野球大会全国大会（63チーム参加）で優勝。平成28年度には仙台市での同大会（64チーム参加）でベスト8の成績。そして本年度も同大会で岐阜に行くことになっております。また私自身、還暦野球を続ける一方で、今では古希野球にも参加し、全国大会にも出場してがんばっております。
　私は今年の10月で78歳になりますが、日常においてはチームの練習に加えて、週4日はジョギング5キロ、マスコット

バットを100回振り、50㍍のダッシュを10本と、少々ハードな練習をこなしております。ストレッチも含め、1日の練習の時間は約2時間を費やしております。

今でも一番の目標は好きな野球をプレーし続けることです。目標を実現するためには、やはり健康を第一に考え、元気に毎日を過ごせる体力を養うことが大切だと思っています。目標があれば、それを成し遂げられる健康を維持するために、体を動かす、基本を大切にする、食事に気を付ける、睡眠をしっかり取る、タバコを吸わない、お酒は量を控えるなど、生活習慣に気を付けることが出来ます。そのことによって今でも元気でいられるのだと思っています。

現在、日本は高齢化社会を迎えていますが、高齢者が元気でいられることが社会に寄与、貢献出来る大きな要素ではないかと私は考えております。還暦野球及び古希野球を17年間続けていますが、自分の好きな野球を通して今でも全国の野球仲間と元気に楽しくプレー出来ること、健康であることに感謝している昨今です。

現在の目標の一つは80歳まで現役でプレーし、80歳を過ぎたら全国還暦野球連盟の理事、山口県還暦野球連盟の理事長として還暦野球に貢献することです。80歳を過ぎたら、ゴルフを楽しむことにより健康と友交を促し、新たな人生を構築していきたいと思います。

また25年間、少年相談員として子どもたちと一緒に過ごせたことも、私の健康と切り離すことの出来ない大きな要素でした。子どもたちからいろいろと教えられたことが、今でも走馬灯のように頭の中を駆け巡ります。また下松市の少年相談員連絡協議会にも会長として10年間携わり、勉強させて頂いたことも、私のライオンズ活動に大きく役立っています。

最後になりましたが、これからも体力、精神力の続く限り、ライオンとして充実した活動を目指し、アクティブに取り組んでまいります。

（クラブ会長／08年入会／77歳）

大船渡屋台村

震災で真っ暗になった街に灯りをともし、元気を取り戻そうと、LCIF東日本大震災指定交付金を受けスタートした屋台村プロジェクト。その一つ、岩手県大船渡市の大船渡屋台村が、敷地のかさ上げ工事に伴い、4月末をもって閉村することになりました。これまでご支援くださった国内外の多くの皆様に心よりの御礼と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

Close up

東北で生まれた庶民の娯楽 庄内出羽人形芝居を継承する

山形と秋田にまたがる鳥海山のふもとに百宅（ももやけ）という集落があり、そこの池田与八という人が、明治の中頃に人形芝居を創始しました。これが庶民の娯楽として定着、最盛期には60を超える一座が、東北を始め北海道や関東甲信越で活動していたようです。が、娯楽の多様化と共に衰退し、最終的には名人と呼ばれる数人が、一人で2体の人形を操る「一人遣い」の演目と共に残りました。先代の津盛柳太郎（つもりりゅうたろう）もその一人です。

昭和47年に、鶴岡市にある温海（あつみ）温泉のたちばなや旅館が、宿泊客への出し物として、津盛柳太郎の「庄内出羽人形芝居」に目を付けます。そして、日本舞踊を教えるなど芸事が好きだった私の母が、たちばなやから頼まれ裏方を務めることになりました。庄内出羽人形芝居は大好評で、結局、常打ち公演が決まります。やがて裏方の母を手伝うため、私も荷物運びなどをするようになりました。

そんなある日、柳太郎がけがで舞台を踏めない事態となりました。柳太郎は私に「代役をやれ」と。毎日裏から見ていたので、人形の遣い方はいつの間にか覚えていました。しかしもちろん、舞台に立ったことはないわけです。それでも穴は開けられないから、と無理無理演じさせられました。最初の1週間は拍手一切無し。私の緊張がお客さんにも伝わっていたんですね。10日ほど経って、初めてパラパラと拍手を頂きました。ああ、私のつたない芸でも拍手をして頂けるのか、とそこから本格的に精進するようになりました。

曲芸のような人形遣いで、坊さんと町娘を同時に操る「出羽人形ばやし傘踊り」

その後、正式に津盛柳貳郎（りゅうじろう）を襲名し、「アジアの伝統手遣い人形劇」でインドや台湾の人形師と共に全国11カ所を回ったり、ヨーロッパの国際人形劇祭に参加したりして、国内外で庄内出羽人形芝居を披露してきました。こうした活動を通じて、自分が継承した人形芝居は世界に通じる貴重なものだということを、私自身再認識させられました。

定期公演があるわけではなく、地元でも知らない人がいるほどですが、最近は市内の小学校に出羽人形芝居クラブが出来るなどの動きもあります。東北で生まれ受け継がれてきた人形芝居ですから、子どもたちが興味を持ってくれるとうれしいですね。酒田ライオンズクラブは私の入会前から強力なサポートをしてくださっていますが、今後はそうした理解のある方たちの協力を得ながら、次世代へバトンをつなげられるよう継承活動にも力を入れていきたいと思っています。

■齋藤均

さいとう・ひとし　1954年1月23日、山形県酒田市生まれ。74年から人形師・津盛柳太郎の下で修行を積み、84年に津盛柳貳郎を襲名。庄内出羽人形芝居で、クラーゲンフルト国際人形劇祭特別賞（オーストリア）、マリボル夏の国際人形劇祭グランプリ（スロベニア）、庄内文化賞などを受賞。2001年3月、酒田ライオンズクラブ入会。庄内出羽人形芝居の歴史を詳述した書『傀儡師（くぐつし）の伝え』（庄内出羽人形芝居保存会）が出版されている。

構成・写真／鈴木秀晃
※上の写真は酒田ライオンズクラブが特別養護老人ホームで実施した庄内出羽人形芝居公演で撮影

人形の頭は中指と人差し指で挟み、親指と小指で腕を操る

表紙の背景

小原の材木岩

宮城県白石市

小原の材木岩は高さ約65メートル、幅約１００メートルの柱状節理。白石川の上流、ダム湖百選に選定されている七ケ宿ダムのすぐ下流にあり、まるで何本もの材木を立て掛けたかのように見えることから、その名が付いた。周辺は材木岩公園として整備され、園内には天然の風穴を利用してカイコの卵（蚕種）を貯蔵したという氷室が復元されているなど、ちょっと珍しい施設も見学出来る。

4月後半から5月初めのゴールデンウィークには、この材木岩近くに大量の鯉のぼりが飾られる。12年前から地元住民が始めたもので、当初飾られたのは２００匹ほどだった。が、東日本大震災翌年の２０１２年、被災地に元気を届けようと、不用になった鯉のぼりの寄付を新聞などで呼び掛けたところ、北は北海道から南は九州まで全国各地から約５００匹の鯉のぼりが寄せられた。以後、掲げる数が一気に増大。ここ数年は地元住民だけではなく、ボランティアも加わり、材木岩を望む白石川の両岸約70メートルにワイヤを張り、８列にわたって約８００匹の鯉のぼりを飾り付けている。

七ケ宿ダムから吹き下ろす強い風を受けた色とりどりの鯉のぼりが、雪解け水を集めて轟々と流れる白石川の上を勢いよく泳ぐ様は、まさに鯉の滝登りを思わせる。新緑の材木岩という絶好のロケーションとあいまって、一度は見ておきたい光景だ。

※ＪＲ東日本白石駅から白石市民バス小原線で約30分、材木岩公園バス停下車。乗用車の場合は、東北自動車道白石ＩＣから国道４号・１１３号経由で約20キロ。

ふるさと探訪

徳島市　取材／鈴木秀晃　写真／田中勝明

さまざまな表情を見せる水都・徳島の魅力

徳島市

徳島市は「四国三郎」と呼ばれる吉野川河口の三角州に発達した都市。江戸時代には徳島藩の城下町として栄えた。藩は吉野川流域の藍生産を奨励、徳島の藍は全国の市場をほぼ独占するまでになり、幕末の人口は国内トップ10に入るほどの隆盛を誇った。また「阿波和三盆」と呼ばれる砂糖の集積地として早くから大量の砂糖を使うことが出来たため、阿波ういろなどの和菓子が生まれ、今に伝えられている。全国的に知られる阿波おどりも江戸時代の発祥。現在、阿波おどりは毎年8月12～15日に開催されており、期間中は国内外から約130万人の見物客が訪れる。

面積／191・39平方キロ　人口／25万5739人（2017年3月1日現在）

【交通アクセス】

JR四国の高徳線、牟岐線、徳島線があり、中心駅は徳島駅

主要道は市内を南北に貫く国道11号と55号、東西に貫く192号。徳島自動車道の徳島ICは、中心市街地まで約20キロ、徳島空港まで約15キロの位置にある

夜間、吉野川の川面をライトで照らして行われるシラスウナギ漁

徳島市内には、あちこちの川に船溜まりがある

吉野川の冬の風物詩 シラスウナギ漁

徳島市には大小138もの川が流れている。その代表格が「坂東太郎」の利根川、「筑紫次郎」の筑後川と並び称される「四国三郎」こと吉野川だ。

冬の夜、その吉野川河口で、幻想的な光景が見られる。漆黒の川面に黄色や緑色の光が浮かび上がり、遠目からはまるでホタルが飛び交うように見える。これはウナギの稚魚、シラスウナギを追う漁師たちの船で、吉野川のシラスウナギ漁は夜間、川面をライトで照らして行われる。

潮に乗って遡上してくるシラスウナギを狙うため、大潮前後の干潮から満潮にかけてが漁には最適。また

徳島
TOKUSHIMA

岸の近くで直接川に入り、水中に電球を沈めてシラスウナギを待つ人もいる

光を使う漁法のため、大潮でも満月の時は不向き。取材をしたのは2月26日の新月で、深夜1時頃に干潮、朝7時前に満潮の予想だった。吉野川河口にある徳島市第一漁業協同組合の和田純一専務理事に伺ったところ、条件的には未明の2時から5時頃が一番いいだろうとのことで、時間を見計らって吉野川へ向かった。

和田さんも以前はシラスウナギ漁に出ていたが、シラスウナギは風のある日の方が多いそうで、強い風が吹く冬の夜中に水しぶきを浴びながらの漁はきついため、最近はもっぱらマスコミや写真愛好家の対応を引き受けているという。

「風が弱い日を狙って年に2、3度、川に出てみることもあるんですが、私が行くと、若い漁師から『今日は和田さんが来てるからだめだ』などと言われ、からかわれます（笑）」

和田さんはそんな話をしながら、漁や船について説明してくれた。

シラスウナギは体長5センチほどで細くて半透明。冬から春にかけ、黒潮に乗って東アジア沿岸を回遊し川を上る。日本では吉野川を始め鹿児島や宮崎、高知、静岡などの川に遡上する。徳島の漁期は12月15日から翌年4月15日まで。国内の漁獲量はピーク時には年間200トンを超えていたが、近年は大幅に減少、10トンを下回る状態が続いている。

以前は直接川に入り、岸部近くで漁をしていたが、現在は船に発電機を積み、船尾に集魚灯を付けての漁が一般的。吉野川では600ワットから1キロワットのLED電球で川面を照らし、舵(かじ)を股で挟んで船をバックさせながら、川面に浮かぶシラスウナギを1匹ずつタモ網ですくっていく。

シラスウナギは「買い子」と呼ばれる仲買人を通して養鰻業者に売られる。12月や1月にとれた稚魚はその年の土用までに成魚に育てられるが、それ以降は来年まで飼育しなくてはいけないため、取引価格が下がるそうだ。取材をした時期のシラスウナギは1キロ80万円前後が相場と聞いた。もっともシラスウナギ1キロと聞いてもピンとこないが、1キロはどんぶり1杯ほどとのことで、1匹当たり120～130円になるという。

古くから徳島に伝わる 独特の文化・遊山箱

徳島には、子どもたちが使う三段重ねの重箱がある。

重箱は「遊山箱」と呼ばれ、そのルーツは江戸時代の水軍基地にある。徳島藩は軍船を停泊させる港を安宅(あたけ)と呼び、近くに船大工集団を住まわせていた。大工たちは船を造った端材で下駄や建具などの日用品も作っ

山口木工の遊山箱。右奥は精細な作業が要求される唐木寄せ木細工の逸品

仏壇製造の技術を生かした丁寧で妥協のない仕事により、唐木の遊山箱を作る山口友市氏（山口木工）

ていた。遊山箱もその中から生まれたもので、大工が自分の子どものために作った弁当箱が元になっている。

船大工は廃藩置県で禄を失うが、その技術を生かし、「安宅物」と言われる日用品やタンス、建具などの製造に転向。やがて「阿波鏡台」や「徳島唐木仏壇」などの地場産業を生み出すことになる。遊山箱も、時代の変遷を経て、船大工が作っていた頃の素朴なものから、木工技術を生かしたものへと変化。近年は唐木仏壇や鏡台の職人たちも遊山箱に取り組み、工芸的な色合いが深まっている。

年配の人たちは子どもの頃、遊山箱に巻き寿司やういろを入れてもらい、レンゲ畑で遊んだ思い出があるという。徳島ではかつて、田植え前のほとんどの田んぼにレンゲが植えられていた。男の子はそこで野球やドッジボールをし、女の子はレンゲで首飾りなどを作っていた。遊山箱の中身がなくなると、子どもたちは菓子を詰めてもらうため家に戻るが、時には近所の家でごちそうを詰めてくれることもあったという。こうした風習は昭和40年頃まで一般的だったが、やがて遊山の文化は廃れ、遊山箱も普通の弁当箱に取って代わられるようになった。

が、最近また、遊山箱が注目され始め、その伝統を復活させる動きも広がっている。更に工芸的な美しさも加わったことから、宝石箱や小物入れ、あるいは記念品や引き出物、初節句を迎える孫への贈り物などにも利用されるようになっている。

川沿いに咲く、西日本最大級の産直マルシェ

阿波おどりや遊山箱、花嫁菓子など、伝統的なものが数多く残る徳島だが、新しい文化も生まれている。その一つ「とくしまマルシェ」は、徳島市中心街の川沿いの遊歩道「しんまちボードウォーク」で毎月最終日曜日に開かれる産直市。

「農業ビジネスの活性化」「観光の活性化」「地域の活性化」を目的に、2010年にスタート。街中で新鮮な農作物を手に取り、試食し、出店者との会話も楽しむという、本場フランスの「マルシェ（市場）」さながらの雰囲気で人気を集め、毎回、県内外から平均1万2千人が訪れている。マルシェ効果で、会場周辺の商店も普段の日曜日に比べ客足が2倍ぐらいになり、活気付いている。

人気の秘密は、マルシェ・スタッフが生産者の元に足を運び、こだわり抜いて選んだ自慢の逸品が並んでいること、生産者自らが販売し消費

大勢の市民や観光客でにぎわうとくしまマルシェ

者と直接触れ合っていることにある。とくしまマルシェ事務局の金森直人代表は、「有機や無農薬、無添加といった農産品や加工品を適正価格で購入頂き、ブランド化を図って満足頂ける徳島産品へと育てていくことが、地域資源を活用したビジネスだと考えています」と話している。

▼取材協力クラブ

徳島吉野川ライオンズクラブ（大井倫夫会長／35人）＝1991年11月2日結成／スポンサー：徳島城山ライオンズクラブ／当時としては珍しい男女混合クラブとして誕生。カンボジアを始め海外の小・中・高校に文具や書籍などを寄贈する他、青少年交換（YCE）の派遣と受け入れを実施するなど、国際関係のアクティビティに力を入れている。地域に対しては吉野川河川敷清掃活動、献血・骨髄バンク活動、小中学校での表彰、蜂須賀桜の植樹、スペシャルオリンピックス徳島や心身障害児者家族の会「にんじんの会」とのボウリング大会などを実施。今年25周年を迎え、記念事業として、とくしま動物園への植樹やベンチ寄贈などを行った。京都日吉ケ丘ライオンズクラブと姉妹提携を結び交流を深めている。

読者から―3月号

■フォローしながら前進すべき

ニーチェは、「脱皮出来ない蛇は滅びる。その意見の脱皮を妨げられた精神たちも同様だ」と言ったそうですが、組織の存続にとっても、環境に適応して変化していくことが不可避であることに変わりはありません。世界は急激に変化しており、組織の細胞である我々個々のメンバーの意識も変化を求められます。

しかし、変化に対応する必要があるのは、まさに変化してはならない一番大事な価値を守るためであり、ライオンズクラブにとっては、普遍的な価値である奉仕する心ではないでしょうか。

ただ、変化についていけないメンバーがいるのも事実です。それを切り捨てるのではなく、フォローしながら前進することが肝要ではないかという思いで特集・LCIフォーワードを読みました。

神奈川県・小田原白梅ライオンズクラブ ●大南修平

■ロードマップに感動

特集のLCIフォーワードを読み、このようなロードマップがあるということにちょっと感動しました。

100周年記念事業の他、会員増強やLCIFなど、大変な日々ですが、更に次の100年を見据えた内容でした。今後5年間の目標が示されたことで、より社会に奉仕出来るライオンズクラブになると思います。準地区やクラブ・レベルで研修をしていく必要を感じました。

北海道・美唄ライオンズクラブ ●牧野修一

■デジタル化に疑問

現在のグローバル社会ではデジタル化が急加速し、あらゆる媒体で拡大している。しかし、何もかもがデジタル化の波に流されて、変わっていくのには少々疑問が残る。

例えば、新聞一つをとってみても、若者の活字離れや核家族化により、新聞発行部数が毎年減少している。これら新聞をとらなくなった人たちがデジタル新聞などを読んでいるかと言えば、そうでもないような気がする。わざわざパソコンやタブレットなどを開いてまで新聞を読むだろうか。

手の届く場所に新聞や雑誌があるからこそ、ふとした時に、読んだり見たりするのではないだろうか。印刷は世界三大発明の一つである。ライオン誌はぜひとも冊子で続けて頂きたいものだ。

新潟県・三条中央ライオンズクラブ ●田中範之

読者プレゼント

■伊賀市の銘酒「半蔵」を読者5人に

今月号「クラブリポート」(10～11ページ)で紹介した三重県・伊賀上野ライオンズクラブのライオン大田智洋が専務取締役を務める㈱大田酒造の「純米大吟醸 半蔵 神の穂」を5人の読者にプレゼントします。伊勢志摩サミットの乾杯酒に選ばれた同社の代表銘柄・半蔵のうち三重県の酒米・神の穂で仕込んだもので、華やかな香りとキレの良さが特長。ワイングラスでおいしい日本酒アワード2016「金賞」受賞。

プレゼントをご希望の方は、はがきに「半蔵」と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は5月末日。応募多数の場合は抽選となります。

【宛先】〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階 一般社団法人 日本ライオンズ・ライオン誌
＊オンライン応募は、ライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）の「プレゼント応募」から。

〈56ページクイズの解答〉第1問=b.／第2問=c.／第3問=b.／第4問=a.／第5問=b.

もう一度読みたい「あの記事」

『ライオン誌』バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

●1972年6月号　私はライオンズ1年生

「国際化への道」

野村康三（大阪ライオンズ クラブ／1964～66年国際理事）

日本ライオンズの国際化とはどういうことだろう。国際理事をどんどん送り出すこと、国際大会を招致すること、国際第3副会長を日本から出すこと、国際理事会を日本で開かせること、外国のクラブと姉妹提携をすること、交換学生の範囲を広げることも国際化の一端であろう。しかし、一番大切なことは日本ライオンズが自由と知性と平和に徹し、敬意と好意を払われる存在になることではないか。

戦前、日本が軍部独裁の嵐に巻き込まれた頃、松岡外相が国際連盟脱退の声明を発して、得意げに帰国し、ちょうちん行列に迎えられたが、それが日本の名声を築いただろうか。語学とダンスと西欧風マナーに秀でた外務省の一部官僚は、真の国際化に役立ったであったろうか。

真の国際化とは日本の自主的存在を保ちながら、豊かな国際的知識と感覚を持ち、他国からも敬意を払われ互譲の精神をもって共通の問題に処して説得、協調してゆくことではないだろうか。

ライオンズはアメリカ人が50％以上も占め、国際理事会もアメリカ人が50％を占めているからどうにもならん、日本は日本的ライオンズをやればいい、と言い切ることは心配である。ライオンズの第一の特色は「国際的」であることだ。日本的ライオンズを叫ぶ向きが、もし国際協会から脱退を実行するのなら話は別だ。脱退せずに日本的ライオンズをやれとはどういう意味か。もし日本ライオンズが国際的なる性格を離脱するのなら、それはもはや国際ライオンズの一員ではなくて「孤立した日本ライオンズ」にすぎない。ただし「日本的ライオンズをやる」という意味が、真のライオンズ精神にのっとって物事を判断する際に、それが不幸にして国際ルールに違反するような時、国際本部に通達、理解を得て「日本はこれで行く」とするのはよいと思う。その場合、国際本部は日本の行き方を理解し承認するであろうし、また国際ルールの変更にまで発展するだろう。

ついでに言えば、ある政府のリーダーの一人が「おれは（対外折衝の）会議の場で言いたいことを言ってきてやった」との言を新聞上で見たが、この感覚と姿勢は「国際化」から程遠いもので、とても国際説得や国際協調などは望めない。日本ライオンズはこのような感覚や姿勢になってはいけないと思う。

大切なことは、国際社会に一人でも多くの友人を作ることだ。それにはOSEALフォーラムや国際大会、各国各地のクラブへ日本のメンバーがどんどん出掛けて行って、他国のライオンズと友達になることだ。

全国9万人のライオンズが毎年一人ずつの友人を作れば、世界中に9万人の「日本の友」が出来る。10年経てば90万人の「日本の友」が出来る。これは大きな存在だと思う。

そして日本ライオンズは国際理事会や本部に対して、言うべきことは遠慮なく言おう。破壊的でなく建設的な意見は遠慮なく堂々と述べよう。それらの率直な意見が、国際協会の一員である日本ライオンズの自由と知性に裏付けされた公正なる意見であれば、世界が耳を傾けるに違いない。真の国際化への道とはこのような「ハイウェイ」のことを指すのではなかろうか。

■本欄で紹介した記事を含むライオン誌アーカイブが、www.thelion-mag.jpでご覧頂けます

ライオン誌例会のススメ
―次の例会ですぐ使える情報

ライオンズ百科

■LCIFの主要奉仕分野

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）は、視力保護、青少年育成、災害援助、人道主義奉仕の四つを主要な奉仕分野として、ライオンズの活動を支えている。1968年6月の設立時の名称は国際ライオンズ財団（LIF）で、当初掲げた目標は、①海外向け技術援助②緊急災害援助③視力保護とその研究開発④がん対策⑤聴力保護⑥人道主義的奉仕活動の6項目。①の海外向け技術援助は、発展途上国の学生が留学後に故国へ帰らず頭脳流出することを防ぐため、専門職を志す若者が自国内で高度な訓練を受けられるように奨学金援助をするプログラムだった。財団の目的は後に、緊急援助、職業技術指導、人道主義奉仕の三つになり、現在では冒頭の四つの分野で援助を必要とする人々の生活をより良いものにしようと活動するライオンズを支援している。

2004年、兵庫県・神戸レインボー ライオンズクラブがLCIF交付金を受けて支援したベトナムの障害児と孤児の職業訓練センター

6月号予告

特集 糖尿病の実態

創設100周年を迎えた国際協会は新たな世界的な課題に対応する主要奉仕分野として糖尿病を含む五つの課題を設定。シカゴ国際大会で糖尿病を新たな焦点として発表することにしている。これを前に、糖尿病の実態を把握し、ライオンズとしての対応を考えてみる。

この日・この月

1878（明治11）年5月24日、日本で最初の視覚・聴覚障害者の学校、**京都盲唖院（現・京都府立聾学校）**が開校した。明治の始め、京都の上京第十九区長だった砂糖問屋の熊谷傳平衛と、上京第十九番組小学校の教員だった古河太四郎は、耳が不自由で学校に通えず、近所の子どもたちにいじめられている子どもたちを見て盲聾教育を決意。小学校内に教場を作って教育を始めると、古河は多くの教具を考案して工夫を重ね、今日の口語法や手話、指文字の元となる指導を行った。やがて公立の学校を望む声が高まると、当時の槇村正直京都府知事が理解を示し、古河を校長に聴覚障害児31人、視覚障害児17人の生徒数48人で開校となった（京都府立聾学校ウェブサイトより）。

■訂正とお詫び

3月号「国際会長メッセージ」（4ページ）及び「特集：LCIフォーワード」（19～32ページ）で、LCIフォーワードの目標として「2021年まで毎年2億人に奉仕する」とあるのは「2021年までに毎年2億人に奉仕する」の誤りでした。訂正しお詫び致します。

クイズ de 例会

〈第1問〉2018年、LCIFは設立から何周年を迎える？

a. 25周年　b. 50周年
c. 100周年

〈第2問〉2018年を前にLCIFが目標として掲げる年間の寄付額は？

a. 3千万ドル
b. 4千万ドル
c. 5千万ドル

〈第3問〉LCIFへの寄付10ドルで、ワクチン接種が出来る子どもの数は？

a. 5人　b. 10人　c. 15人

〈第4問〉国際協会が毎年実施するポスター及び作文コンテストのテーマは？

a. 平和　b. 飢餓　c. 環境

〈第5問〉ライオンズクラブに女性の入会を認める会則改正が行われたのは何年の国際大会？

a. 1986年　b. 1987年
c. 1988年

★回答は54ページ下

Official publication of Lions Clubs International

EXECUTIVE OFFICERS
President Chancellor Robert E. “Bob” Corlew, Milton, Tennessee, United States; Immediate Past President Dr. Jitsuhiro Yamada, Minokamo-shi, Gifu-ken, Japan; First Vice President Naresh Aggarwal, Delhi, India; Second Vice President Gudrun Yngvadottir, Gardabaer, Iceland; Third Vice President Jung-Yul Choi, Busan City, Korea. Contact the officers at Lions Clubs International, 300 W 22nd St., Oak Brook, Illinois, 60523-8842, USA.

DIRECTORS
Second Year Directors
Melvyn K. Bray, New Jersey, United States; Pierre H. Chatel, Montpellier, France; Eun-Seouk Chung, Gyeonggi-do, Korea; Gurcharan Singh Hora, Siliguri, India; Howard Hudson, California, United States; Sanjay Khetan, Birgani, Nepal; Robert M. Libin, New York, United States; Richard Liebno, Maryland, United States; Helmut Marhauer, Hildesheim, Germany; Bill Phillipi, Kansas, United States; Lewis Quinn, Alaska, United States; Yoshiyuki Sato, Oita, Japan; Gabriele Sabatosanti Scarpelli, Genova, Italy; Jerome Thompson, Alabama, United States; Ramiro Vela Villarreal, Nuevo León, Mexico; Roderick “Rod” Wright, New Brunswick, Canada; Katsuyuki Yasui, Hokkaido, Japan.

First Year Directors
Bruce Beck, Minnesota, United States; Tony Benbow, Vermont South, Australia; K. Dhanabalan, Erode, India; Luiz Geraldo Matheus Figueira, Brasília, Brazil; Markus Flaaming, Espoo, Finland; Elisabeth Haderer, Overeen, The Netherlands; Magnet Lin, Taipei, Taiwan; Sam H. Lindsey Jr., Texas, United States; N. Alan Lundgren, Arizona, United States; Joyce Middleton, Massachusetts, United States; Nicolin Carol Moore, Arima, Trinidad and Tobago; Yasuhisa Nakamura, Saitama, Japan; Aruna Abhay Oswal, Gujrat, India; Vijay Kumar Raju Vegesna, Visakhapatnam, India; Elien van Dille, Ronse, Belgium; Jennifer Ware, Michigan, United States; Jaepung Yoo, Cheongju, Korea.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオンズクラブ国際協会の公式出版物であるライオン誌は、国際理事会の認可を得て次の20カ国語で発行される－英語、スペイン語、日本語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語、ドイツ語、フィンランド語、韓国語、ポルトガル語、オランダ語、デンマーク語、中国語、ノルウェー語、アイスランド語、トルコ語、ギリシャ語、ヒンディー語、インドネシア語、タイ語

ライオン誌日本語版委員会
国際理事　安井　克之
国際理事　佐藤　宜之
国際理事　中村　泰久
委 員 長　石井　博之（334複合地区）
編 集 長　佐藤　義則（332複合地区）
委　　員　久津間康允（330複合地区）
委　　員　佐々木忠康（331複合地区）
委　　員　渡 邉 信 也（333複合地区）
委　　員　中村　房雄（335複合地区）
委　　員　矢 野 敏 明（336複合地区）
委　　員　小 柴 登 司（337複合地区）

一般社団法人日本ライオンズ
ライオン誌日本語版委員会
〒104-0028東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階
TEL.(03)6674-8777 FAX.(03)6674-8781
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp

編集室

時代に即したデジタル化を

ライオン誌
日本語版編集長
◉
佐藤義則
（宮城県・蔵王）

今般のライオン誌デジタル化に伴い、国内全クラブを対象にアンケートを実施した。国際協会は2018年1月以降、公式版ライオン誌の補助金を会員一人当たり年6ドルから4ドルに減額し、印刷版発行回数を年6回以上から4回以上にする方針を示している。これを受け、今後の日本語版発行について検討するためのアンケートだ。

例会で会員個々の意見を聞いて回答してもらう方式で、半数以上の1810クラブから回答があった。以下にその結果の一部を示す。

【ライオン誌の閲読率】
①ほとんどの記事をよく読む……………14・5%
②関心のある記事だけ読む……………29・3%
③さっと目を通す程度…32・1%
④ほとんど読まない……21・1%
⑤全く読まない…………3・1%

【デジタル版への期待】（選択肢10項のうち回答の多い3項）
①スマホ、タブレットなど種々の端末で読める…………20・3%
②文字の拡大が出来る…15・8%
③記事の検索が出来る…15・2%

【今後印刷版発行をどうすべきか】
①現行の質と量を維持し発行出来る分でいい……………73・9%
②ページ数を減らしても毎月発行してほしい……………16・7%
③特別負担金現行50円を増額しても同じ質のものを毎月発行してほしい…………………5・0%
④その他…………………4・3%

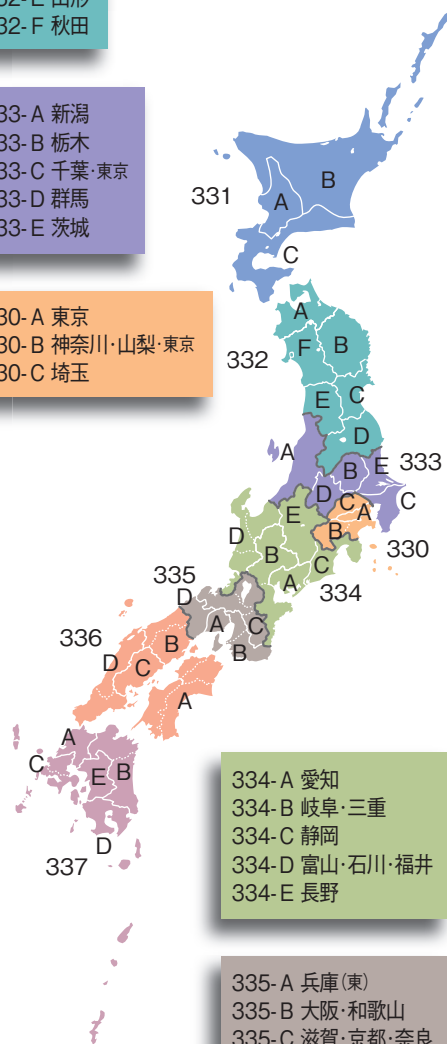
この結果を受けて3月の委員会会議で審議したが、結論を導くには至らなかった。委員からは、国際協会の進めるデジタル版は不十分で日本語版独自のデジタル化を進めるべきとの意見もあった。

昨年度、2015年10月の編集者会議で国際協会が提示したのは映像などデジタルの特性を生かした内容で、これに対応すべく当委員会はデジタル化小委員会を立ち上げて検討を重ね、進む方向を模索していた。しかし今年度になって国際協会はだいぶトーンダウンし、印刷版の内容をそのまま統一フォーマットのデジタル版で見られるようにする、という形に収まった。

委員会としては引き続き協議を重ね、時代に即したライオン誌のデジタル化を目指したい。

日本ライオンズクラブ分布図

2017.3.31　eMMR ServannA報告による

地区	クラブ数	会員数	増減	男女別会員数 男性	女性（割合）	家族会員数 子会員	増減	男性	女性
330-A	201	6,483	80	4,695	1,788（27.6）	1,851	5	607	1,244
330-B	166	4,546	47	3,816	730（16.1）	479	-6	128	351
330-C	85	2,391	40	1,941	450（18.8）	388	10	132	256
330 計	452	13,420	167	10,452	2,968（22.1）	2,718	9	867	1,851
331-A	73	2,803	69	2,239	564（20.1）	488	29	94	394
331-B	85	2,729	-13	2,186	543（19.9）	480	-1	66	414
331-C	51	1,930	8	1,576	354（18.3）	334	2	86	248
331 計	209	7,462	64	6,001	1,461（19.6）	1,302	30	246	1,056
332-A	63	2,231	108	1,700	531（23.8）	432	54	93	339
332-B	53	2,447	31	1,608	839（34.3）	872	19	154	718
332-C	67	1,951	62	1,375	576（29.5）	548	23	113	435
332-D	72	2,549	59	1,943	606（23.8）	560	33	117	443
332-E	56	2,084	50	1,625	459（22.0）	387	2	59	328
332-F	44	1,426	26	1,035	391（27.4）	329	2	58	271
332 計	355	12,688	336	9,286	3,402（26.8）	3,128	133	594	2,534
333-A	73	3,273	45	2,556	717（21.9）	683	41	174	509
333-B	48	1,769	27	1,107	662（37.4）	626	41	158	468
333-C	134	3,569	30	2,698	871（24.4）	566	-17	162	404
333-D	54	2,471	25	1,792	679（27.5）	704	-22	170	534
333-E	82	4,892	71	3,170	1,722（35.2）	1,948	-37	525	1,423
333 計	391	15,974	198	11,323	4,651（29.1）	4,527	6	1,189	3,338
334-A	120	6,976	89	4,583	2,393（34.3）	2,438	17	491	1,947
334-B	79	4,798	28	3,261	1,537（32.0）	1,705	-46	347	1,358
334-C	79	3,513	32	2,895	618（17.6）	543	-29	75	468
334-D	98	6,008	203	3,985	2,023（33.7）	2,169	100	404	1,765
334-E	52	2,710	24	1,911	799（29.5）	806	-30	209	597
334 計	428	24,005	376	16,635	7,370（30.7）	7,661	12	1,526	6,135
335-A	81	2,163	22	1,698	465（21.5）	229	7	35	194
335-B	169	6,688	71	4,856	1,832（27.4）	1,554	31	328	1,226
335-C	115	4,113	64	3,431	682（16.6）	415	4	93	322
335-D	64	2,064	21	1,591	473（22.9）	335	2	75	260
335 計	429	15,028	178	11,576	3,452（23.0）	2,533	44	531	2,002
336-A	147	6,258	153	4,740	1,518（24.3）	1,121	20	216	905
336-B	94	3,316	-76	2,650	666（20.1）	467	-31	75	392
336-C	96	3,512	70	2,935	577（16.4）	415	67	75	340
336-D	92	3,422	31	2,822	600（17.5）	434	10	45	389
336 計	429	16,508	178	13,147	3,361（20.4）	2,437	66	411	2,026
337-A	116	5,561	74	3,983	1,578（28.4）	1,264	25	270	994
337-B	69	2,996	103	2,193	803（26.8）	797	35	170	627
337-C	80	4,182	-51	2,778	1,404（33.6）	1,446	-87	418	1,028
337-D	76	2,374	23	2,032	342（14.4）	185	-3	37	148
337-E	58	1,872	105	1,494	378（20.2）	282	60	77	205
337 計	399	16,985	254	12,480	4,505（26.5）	3,974	30	972	3,002
総計	3,092	122,070	1,751	90,900	31,170（25.5）	28,280	330	6,336	21,944

世界のライオンズ

2017.3.31　国際協会集計

国または領域………212　クラブ数 ………47,292
会員数 ……1,415,228　会員数増減……35,739

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズ新書

ライオンズ新書01 ライオンズ力を高める 第1版第2刷

ライオンズクラブの歴史や組織からクラブ運営の全般までを、分かりやすく系統的にまとめた。1983年に刊行した『ライオンズ スピリット』の後継書。
新書判 224ページ
1部500円･送料実費

●大口注文割引：100～499部＝1部450円／500部以上＝1部400円

ライオンズ新書02 LCIF早分かり 第2版第1刷

ライオンズクラブ国際財団の目的や仕組み、寄せられた献金がライオンズの人道奉仕にどのように生かされているかなど、LCIFの概要や意義をまとめた。
新書判 184ページ
1部400円･送料実費

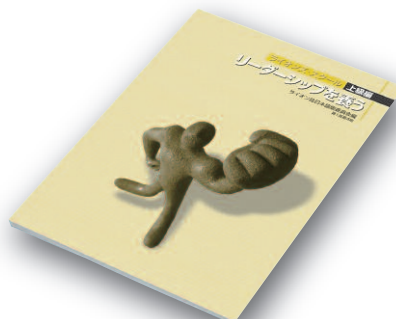
●大口注文割引：100～499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

ライオンズスクール･シリーズ

初級編･ライオンズクラブ入門 第3版第6刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ
1部400円･送料実費

上級編･リーダーシップを養う 第1版第5刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ
1部400円･送料実費

●大口注文割引(ライオンズスクール･シリーズ)：100～499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

- 合計で2万円以上ご注文の場合、送料無料（組み合わせは問いません）。※ただし、急ぎの場合は実費請求
- お申し込みはEメール(office@thelion.jp)またはファクス(03-6674-8781)でお願いします

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●『ライオンズ力を高める』成り立ちから組織、運営まで分かる簡単ガイド ……… 部
●『LCIF早分かり』世界ナンバー1 NGOの簡単ガイド ……… 部
●ライオンズスクール初級編『ライオンズクラブ入門』 ……… 部
●ライオンズスクール上級編『リーダーシップを養う』 ……… 部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

ライオン誌5月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費78円
2017年(平成29年)4月20日発行　毎月1回20日発行　第59巻第11号
発行／一般社団法人日本ライオンズ　ライオン誌日本語版委員会　〒104・0028 東京都中央区八重洲2・6・15 JOTOビル9階 Tel 03・6674・8777　印刷／凸版印刷株式会社

世界中の子どもたちの笑顔が見たい!

300 W 22ND STREET, OAK BROOK, IL 60523-8842, USA
Phone: 630-571-5466　Fax: 630-571-5735
E-mail: lcif@lionsclubs.org
http://www.lcif.org/JA/index.php